

都留市史

資料編

古代・中世
近世 I

例言

甲斐国都留郡の河口湖周辺の戦国期の様相を記録した「勝山記」は、別名が「妙法寺記」ともいわれて、かなり早くから全国的に流布した古記録である。その書名のいわれや筆者、さらには成立事情については本文紹介の後に解説を付したので参照していただきたいが、ここでは、より古い型を残していると思われる勝山村の御室浅間神社所蔵の「勝山記」を上段に、その異写本である河口湖町小立の妙法寺に伝わったとされている「妙法寺記」を下段に配して、その校異を明らかにした。「妙法寺記」については良質の写本がないため、最も早くから流布していた文政十年(二二七)版行の松屋小山田与清所蔵本を底本とした。ここでの収録範囲は、「勝山記」の前半部分はこの地域との関連記事がないこともあって省略し、「妙法寺記」に併せて文正元年(二四六)より始めた。

ともにその原本にもとずいて誤り等も忠実に翻刻したが、まず「勝山記」について、本文を上段におくり組みとし、それに合わせて「妙法寺記」も同じように下段に組んだ。また、その内容を理解しやすくするため、両記ともに適宜に読点を付したほか、文字の校異や注記に関しては「」で、内容的な説明事項には()をもっていずれも「勝山記」の方へ傍注を付した。なお、「妙法寺記」の方は、明らかな誤字や宛字が多かったが、すべて原文のままとした。

『勝山記』

○文正元年^{〔等〕}丙戌閏十月廿五日

甲州東郡久遠立正寺開山先師日朝上人御死去、未尅御共^{〔供〕}ノ弟

子七十人、導師ハ御弟子ノ内本蓮寺玉蔵坊

○應仁元年^{〔子〕}亥丁

二戊

○文明元年^{〔丑〕}己

二^{〔庚〕}カノエヲ

『妙法寺記』

文正元年^{〔妙法寺記上〕}丙戌閏十月廿五日

甲斐當郡久遠立正寺開山先師日朝上人御死去、未尅御供弟

子七拾人、導師ハ御弟子ノ内本蓮寺玉蔵坊

應仁元年^{〔子〕}亥丁

二戊

文明元年^{〔丑〕}己

二^{〔庚〕}寅

三卯辛 十月一日星ト月ト出テ相玉フ、同年西ニ當テ星モエ玉
フ、其ノ後甲州軍サ起ル、立正寺御彰堂立
四辰 甲州花取リ山ニ信州ノ大煩殿合セシ、五月廿日
五巳癸 甲州大飢饉テ餓死スル事無限、米ハ百三十一升粟ハ七
十大麦ハ六十也

六キノヘ午

七未乙 極月十日河口殿ヲ地下打取ル、三月大水出ル、甲州福貴
不及申ニ

八丙申 松ヲ二度立ル也、犬ニハカニ石木又ハ人カミツキ、自
滅スル事不知數ヲ、駿河ノ守護殿遠江ニテ打死、同共イヤヘ・
アサイナ打死

九丁丙 此年ウリカイ高クシテ、飢饉無限、少童モヲヤム事大
半ニコエタリ、生ル者ハ千死一生、武藏長尾四郎衛門ノヲチ
ノヲワリノ守ト合戦

十戌 霜月十四日王京ヨリ東海道ヘ流サレ御座ス、甲州ヘ趣キ
小石澤觀音寺ニ御座ス

十一己 世ノ中ハ半分吉、兄弟契約無限

十二子庚 三月廿日、富士山吉田取井立

十三丑 此季疫病天下ニ流行ス、人病ミ死事無限

十四寅 此季ハ大風度々吹、サクモウ悪クシテ飢渴也、人民多
ク病死、大水出ル事無限、光長寺大坊此年アク

十五卯癸 此季賣買高クシテ世間ツマル事無限、疫病多クハヤル

ナリ

十六辰 此年立正寺ニテ尼崎御聖教異本書候、又私ケ自願御影
造立

十七巳 春ツマル事無限、但シ賣買吉、光長寺大坊定玉フ
同多宝造立

十八戌 此年賣買吉、但シ疫病ハヤリ千死一生也、大田道灌入
道相州カス屋ノ金造寺ニテ大夫殿ヨリ被打候、八月四日風吹
世間半分代ノ中也、光長寺ノ別當小石澤ニテ七日弘道アリ、
乃至栗原ニテ弘道アリ、説法ノ願主立正寺也

十九未 此年ハ賣買吉、疫病ニテ人多死事大半ニ過タリ、聖護
院甲州・武州ヘ下、關東乃至奥州マテ下リ玉フ、開元

○長享元 戊申

二 此年ハ大雨シキリニシテ、粟比損ナリ、申年疫病ハヤリ人
民死事無限

三巳酉 此年世間ツマル事不可及言説ニ、大麦吉、疫病ハヤル、
人民死ス、甲斐國ヘ京ヨリ白キタカラ進物也、三年テ開元

○延徳元 開元 戊戌

京ニハ正京二年ト延徳ヲカエ玉フナリ、此年ハ多日テリ、後
ニハ大風大雨フリテ作モウ皆実モナシ、大飢饉無申計、天下
ニ此年サ、ラヲ老若共ニスル事無限、又京ニ王崩御トテ、福
徳二年戌年号ヲ賛ル也、此年一季中ニ三度季号賛ルナリ、以
ノ外ニ大飢饉ニテ、其ノ年ノ内ニ米ハ七十大豆ハ六十粟ハ更

三卯辛 十月朔日星月出逢玉フ、同年西ニ當テ星燃玉
フ、其後甲州軍起、立正寺御堂立影
四辰 甲州花取山信劔大炊殿合戦、五月廿日
五巳癸 甲劔大飢饉餓死スル事無限、米百三十文壹升粟七十文
大麦六十文也

六午甲

七未乙 極月十日河口殿ヲ地下打取、三月大水出ル、甲劔富貴
不及申

八丙申 門松二度立ル也、犬俄ニ石木又ハ人ニ噛付、自
滅スル事不知數ヲ、駿河ノ守護殿遠江ニテ打死、同供伊大部
朝比奈打死

九酉丁 此年賣買高ク而、飢饉無限、少童抱ヲヤムコト大
半ニコエタリ、生ル者千死一生、武藏長尾四郎左エ門叔父
尾張守ト合戦

十戌 霜月十四日王京ヨリ東海江流レ御坐ス、甲劔ヘ趣
小石澤觀音寺ニ御坐ス

十一己 世中十分吉、兄弟契約無限

十二子庚 三月廿日富士山吉田鳥居立

十三丑 此年疫病天下ニ流行、病死人多

十四寅 此年大風度々吹、作毛凶飢渴也、人民多
病死、大水出ル、光長寺大坊此年アク

十五卯癸 此年賣買高而世間ツマル事無限、疫病多流行

也

十六辰 此年立正寺ニテ尼崎御聖教異本書、又私目願御影
造立

十七巳 春ツマル事無限、但賣買吉、光長寺大坊宅玉フ、
同多寶造立

十八戌 此年賣買吉、但疫病流行千死一生也、大田道灌入
道相劔糟屋金造寺ニテ大夫殿ヨリ打死、八月四日風吹
世間半分代ノ中也、光長寺別當小石澤ニテ去被返、
乃至栗原ニテ被返アリ、説法願主立正寺

十九未 此年賣買吉、疫病ニテ人多死事大半ニ過タリ、聖護
院甲劔・武劔ヘ下ル、關東乃至奥劔迄下リ玉フ、改元

長享元 戊申

二 此年大雨頻ニ而、粟皆損也、申年疫病流行
人民死事不知數

三巳酉 此年世間ツマル事不可及言説、大麦吉、疫病流行
人民死ス、甲斐國京ヨリ白鷹ヲ進物也、三年ニ而改元

延徳元 戊戌

京ニテハ正享二年ト延徳ヲ改玉フ也、此年ハ多日テリ後
ニハ大風又大雨降テ作毛皆實ナシ、大飢饉無申計、天下
ニ此年老若共サ、ラヲスル事無限、又京ニ王崩御トテ、福
徳二戌年ト年号ヲ改ル也、殊
ノ外ニ大飢饉而、其年ノ内ニ米ハ七十大豆六十、粟ハ更

ニナシ、牛馬カツエ死ル事大半ニ越タリ、人民飢死無限

○明應元年^{〔年〕} 此年モ季号イロ／＼也、此年モ大飢饉無申計、賣買ナシ、北条ノ御所遷化也、牛馬飢死事無限、シヲカ初ハ四貫文後ハ三貫六文ニ一駄賣候、此年六月二日大雨フリ、在所皆流ル也、此年クワケン習京ヨリ西尊院トテ習ハセ玉フナリ、^{〔寛〕}ケイコ三月十四日ナリ

○延徳四季^{〔子〕}

此年六月十一日甲州乱国ニ成リ始テ候也、當年ハ夏ヨリ世間クツロク也

○明應二年^{〔丑〕}

此年甲州以ノ外ニ惣念也、惣領度ニ合戦負玉フ、世間ハ福貴ス、賣買ヤソシ、駿河国ヨリ伊豆ヘ打入也

○明應三年^{〔寅〕}

此年賣買吉、吉田取訪大明神鐘子武州ヨリ鑄テ昇テ候、三月廿六日ノ合戦ニハ武田彦八郎殿負玉フ、大蔵ノ大輔打死、同山中殿打死也、此年フシサハ道場炎上、同タイマ道場焼ル也、耕作ハ半分モ実不入

○明應四年^{〔卯〕}

吉田鐘樓堂、此年卯月申ニム子上ス、御所嶋ヘヲチ玉フ、此年八月伊豆ヨリ伊勢入道甲州ヘ打入り、カマ山ニ陳ヲハリ、サレトモ和段ニテ引返ス、七月十三日大風吹テ、作り一本モ不入実飢饉ス、岡カ光長寺ノ大坊、此年定リ玉フ也

○明應五年^{〔辰〕} 此年北条ノ君武州ヨリ甲斐国都留郡吉田正

覚庵ヘ移リ玉イテ、富士ヘ御出テ、此年伊勢入道ノヲト、弥二郎、七月ヲウトウ太敷共ニ打死、又此年八月十六日大水大風吹テ、作毛悉損ルナリ、岡ノ大坊客殿霜月大原ヨリ造立シテ本寺ヘ越奉ル、本寺ノ十羅刹堂此年造立ツ、冬日テリ、此年日国坊為現世安穩後生、雲山之本門壽量品奉誦始ル也、サテ無懈怠奉讀アリ、漸ク一万卷成就申候

○明應六年^{〔巳〕}

此年賣買吉、秋モ耕作吉、ヒエ十分ニ

○明應七年^{〔午〕} 戊午閏月十月ナリ、正月ノ一日ヨリ事ノ外ニアタ、カニ雪フラス道吉、八月廿五日辰尅ニ大地震動シテ、日本国中堂塔乃至諸家悉類レ落、大海邊リハ皆々打浪ニ引レテ、伊豆ノ浦ヘ悉ク死失、又小河悉損失ス、同月廿八日大雨大風無限、申尅當方ノ西海・長濱、同大田輪・大原悉ク壁ニヲサレテ、人々死ル事大半ニ過ヘタリ、アシワタ小海ノイハウ皆悉ク流テ白山ト成リ候、武田親子此年和睦シ玉フナリ、冬雪ハサシテ不降、大飢饉無申計候

○明應八年^{〔未〕} 未七大五小也

正月五日大地震動スル也、惣テ正月大風吹也、賣買事ノ外高シテ、春ツマル事不及申ニ、大麥小麦共ニヨシ、吉田上行寺上ヘ引ル也、七月六日エイ山三塔九院悉ホソ河殿焼拂也、此年霜月王流サレテ三嶋付玉フ也、早雲入道聴テ相州ヘ送給也

ニ無シ、牛馬渴死ル事大半ニ越タリ、人民飢死事無限

明應元年^{〔辛〕} 此年モ年号色々也、大飢饉無申計賣買ナシ、北条御所遷化、牛馬飢死事無限、鹽初ハ四貫文後ハ三貫六文ニ壹駄賣、此年六月二日大雨降、在所皆流レル也、此年歌弦習京ヨリ西洞院トテ習ハセ玉フ也、^{〔寛〕}稽古三月十四日ヨリ也

延徳四季^{〔子〕}

此年六月十一日甲州亂國ニ成始ル也、當年夏ヨリ世間クツロク也

明應二年^{〔丑〕}

此年甲州以ノ外物騒也、惣領度々合戦負玉フ、世間福貴ス、賣買安シ、駿河国ヨリ伊豆ヘ打入也

明應三年^{〔寅〕}

此年賣買吉、吉田村諏方大明神鐘武劬ヨリ鑄テ上ル、三月十六日合戦ニハ武田彦八郎殿負玉フ、大蔵大輔打死、同山中殿打死也、此年藤澤道場焼ル、同當麻道場焼ル、耕作二分ノ實入ナリ

明應四年^{〔卯〕}

吉田鐘樓堂、此年卯月申日ニ棟上ス、御所嶋ヘ落玉フ、此年八月伊豆ヨリ伊勢入道甲州打入、鎌山ニ陣ヲ張タレトモ、和談ニ而引反ス、七月十三日大風吹、作一本モ實不入飢饉ス、岡光長寺ノ大坊、此年定リ玉フ也

明應五年^{〔辰〕} 此年北条君武劬ヨリ甲斐都留郡吉田正

覺庵ニ移リ玉ヒテ、富士ヘ御出、此年伊勢入道ノ弟彌次郎、七月郎等太敷共ニ打死ス、此年八月十六日大水又大風吹テ、作毛悉損ル也、岡大坊客殿霜月大原ヨリ造立而本寺ヘ越奉ル、本寺ノ十羅刹堂此年造立也、冬日テリ、此年日國坊為現世安穩後生、雲山之本門壽量品奉誦始ル也、サテ無懈怠奉讀間、漸ク一万卷成就スル

明應六年^{〔巳〕}

此年賣買吉、秋モ耕作吉、稗十分也

明應七年^{〔午〕} 戊午閏月十月也、正月元日ヨリ殊ノ外暖ニテ雪不降道吉、八月廿五日辰尅ニ大地震動而、日本國中堂塔乃至諸家悉類レ落、大海邊ハ皆々打浪ニ引レテ、伊豆ノ浦ヘ悉死失ス、小川悉損失ス、同月廿八日大雨大風無限、申尅當方ノ西海・長濱・大田輪・大原悉壁ニオサレテ人々死事大半ニ超エタリ、アシワタ・小海ノ巖皆流テ白山ト成ル、武田親子此年和睦シ玉フ也、冬雪ハサシテ不降、大飢饉無申計

明應八年^{〔未〕} 未七大五小也

正月二日大地震動スル也、惣而正月大風吹也、賣買殊外高而、春ツマル事不及言ニ、大麥小麦共ニヨシ、吉田上行寺上ヘ引ル也、七月六日叡山三塔九院悉ク細川殿焼拂也、此年霜月王流サレテ三嶋ヘ付玉フ也、早雲入道諫テ相州ヘ送賜也

○明應九季庚申六六二小也

此年マテモ大地動不ル絶、五月十八日大風吹ク、吉田鳥居トリイ
卯月廿日立タツ、六月四日大地震、上ノ午ノ年大地震ニモ勝レ
タリ、惣テイカナル日モ夜モ動ル事不絶、更ニ無限、此年六
月富士ヘ道者参ル事無限、關東乱ニヨリ須走ヘ皆モ道者付ナ
リ、此年八月貫主様ヨリ當分法寺ヲ給ル、御渡狀共頂タイ仕
候、為後日示置申候

○明應十季辛酉八八五小ナリ

此年作毛ノ草生ライハ十年廿年ニモ無並ヒ吉シ、但六月土用ノ
内夜ル昼ル大雨フル間、大水出テ作り悉水ニナリ候、此年
カイケン改元

○文龜元年壬戌

此年大雨降レ共世間ハ十分ニ吉シ、九月十八日自伊豆國早雲
入道甲州ヘ打入、吉田城山・小倉山兩所ニ代ヲ致テ、國中大勢
ニテ卷間、無弓矢皆他國ヘ勢衆、十月三日夜チリノニケテ
皆死、極月小カンノ内ニマムシ雪中ニ出テ人ノ足邊ヲ廻ル
事、又カエル飛ヒマワリテカンニツメラレテ死、余リ不思議
サニ書置キ申也

○文龜二季癸亥

此年ハ世中凶、惡風八月吹テ耕作殊事外也、冬雪フラス、淺間
ノ宮ヘサル下テ一兩日木林ヲ遊行シテ失ル、キツ子人ニ成テ
人ノ家ニ来リ、又キツ子人ニクイツクナリ

○文龜三年甲子

此季カツラ山氏時孫四郎殿富士上方ノ梨木澤ニテ生害ス、又此年
常在寺日印様五月廿二日死去、八月卅日夜シモフリテ十分
ノ世ノ中、ナニモ無クアイタリ、當海十二月十七日ヨリコラ
リ始テ三月ノ近マテトケス、海少モアカス厚サ一二尺ニコラ
リテ人ノ往返遊行スル事無限、冬中日テリ正月二月マテモテ
リトラス、冬中雪フラス、

○文龜四季乙丑

此年始ノ三月マテ雪フラス、世間事外ツマル、此年舟津ツ、
ノロヲ小林尾張入道殿、本主フサギ玉フ處ヲ取アケ玉ヘハ、
花タテノカケナトヲ堀出シ玉フ、大ク井水ヲ引也、海ヒル事
無限、此年季号ハ賛ルナリ、

○永正元年乙丑

此年富士山ニ六月・七月兩月ニ雪五度フル、作毛ヒエカイソ
ン大ヒテリ、ウロノ水ヲ祢宜殿下テコヲリヲカレ申候カ四
五日トケス、其日雨フル、武州ニハ子スミ多シテハヤリ出
テ、ヒルイモチノ女ヲ食死シテ、其ノ處ノ備食物ヲハム、子
コヲ子スミ皆ヒ死ス、此年大雪四尺ニフル、エチコノ國
ヨリコホウ關東ヘ向玉フ、十一・十二月ノ兩月ナリ、武州國
兩上相合戰、駿河平ニ伊豆ノ國勢向テ伊豆勢マクル也、經木
ヲ取テ數ス四万人打死スル也、此年冬サムキ事不及言說ニ、
此海モ少モアク處無シ、大飢饉百分千言說ニ不及、馬人死
ル事無限、賣買米ハ七十粟ハ六十ヒエハ五十文大豆六十文モ
ミ六十文

明應九季庚申六六六小也

此年マテモ大地動不絶、五月十八日大風吹、吉田鳥居
卯月廿日ニ立、六月四日大地震、上ノ午年大地震ニモ勝レ
タリ、惣而如何ナル日モ夜モ動事不絶、更ニ無限、此年六
月富士導者参事無限、關東亂ニヨリ須走ヘ皆導者付也、
此年八月勸主様ヨリ當妙法寺ヲ賜ル也、御渡狀共頂戴仕、
為後日示置

明應十季辛酉八八五小也

此年作毛草生ハ十年廿年ニモ無並吉、但六月土用ノ
内夜晝大雨降大水出テ作り悉水ニ成ル、此年
改元

文龜元年壬戌

此年大雨降共世間十分ニ吉、九月十八日從伊豆國早雲
入道甲州ヘ打入、吉田城山・小倉山兩所ニ代ヲ致テ、國中大勢
ニ而卷門、無弓矢シテ皆他國ヘ勢衆、十月三日夜散々逃テ
皆死、極月小寒内ニマムシ雪中ニ出テ人ノ足ノ邊ヲ廻ル
事、又蠶飛廻リテ寒ニツメラレテ死、余リ不思議
サニ書置申也

文龜二季癸亥

此年ハ世中凶、惡風八月吹テ耕作殊事外也、冬雲不降、淺間
宮ヘ猿下テ一兩日森ヲ遊行而失ル、狐人ニ成テ
人ノ家來ト成、又狐人ニ喰付也

文龜三季甲子

此年葛山孫四郎殿富士上方ノ梨木澤ニ而生害ス、又此年
常在寺日印様五月廿二日死去、八月卅日夜霜降テ十分
ノ世ノ中、何モ無ウアイタリ、當海十二月十七日ヨリ氷
始テ三月近ク迄不解、海少モアカス厚サ一二尺ニ氷
テ人ノ往來及遊行スル事無限、冬中日テリ正月二月迄モ
照通ス、冬中雪不降

文龜四季乙丑

此年始三月迄雪不降、世間殊外ツマル、此年舟津ツ、
ノロヲ小林尾張入道殿、本主ノフサギ玉フ所ヲ取ノケ玉ヘハ、
花立ノカケナトヲ堀出シ玉フ、大ク井水ヲ引也、湖ヒル事
無限、此年年号改ル也

永正元年甲子

此年富士山ニ六月・七月兩月ニ雪五度降ル、作毛ヒエ皆損
大ヒテリ、ウロノ水ヲ瀬宜殿下リテ氷ヲヒラカレ申候カ四
五日不解、其日雨降ル、武州ニ鼠多ハヤリ出
テ、晝孕ノ女ヲ喰殺而、其處ノ時ノ食物ヲ喰、猫
ヲ鼠皆々喰コロス、此年大雪四尺降、越後國
ヨリ小堀關東ヘ向玉フ、十一・十二ノ兩月也、武藏國
兩上相合戰、駿河平ニ伊豆ノ國勢向テ伊豆勢負ル也、經木
ヲ取テ數ス四万人打死スル也、此年冬寒キ事石及言說、
此海少モアク處無シ、大飢饉百分千言說不及、人馬死
ル事無限、賣買米七十粟六十稗五十文大豆六十文
糲六十文

○永正三季丙子

此年春ハ賣買去年ノ冬ヨリモ尚ヲ高直也、秋ツクリハ悉ク吉シ、但シ春ノツマリニ秋吉ケレトモ、物モツクラヌ者イヨ／＼明ル、境内春マデモ貧ナリ、此年半ノ比ヨリモ年号替ルナリ、此年冬雪フラスシテ、アタ、カナル事先代ニモカヤウナル事無之、海モコララス

●永正四年

彌勒二年丁卯 此年當國ノ守護殿五郎殿御死去、又御本寺鐘ヲツキヨ子ノ岩見守ヨリ記進至候、此人ノ母ノ三十三年ノ為ニ六十部ノ寫經供養、二月ヒカンニ門徒ノ衆中誂九字宛之頓享眼ヲ驚供人候也

○永正五年戊辰

此年世間富貴言説ニツクシカタシ、一國二國ナラス日本國賣買ヤソシ、此年常在寺ノ日運正月十日死去、此年大雨シキリニシテ作毛言語道斷惡シ、當山室ノ宮ツクリ取持チ小林尾州入道殿諸國出テ前代未聞事也、此年十月四日武田八郎殿・同子息弥九郎殿・珍宝丸打レサセ玉フ也、此年ノ十月十日日國坊之常在寺へ移リ住居ス、此年ハ秋作ハ悉ク惡シ、此極月五日ニ國中ニテ合戰御座候、都留郡ノ人数マクルナリ、小山田弥太郎との打死、同心ノ打死無限、然ハ工藤殿・小山田平三殿ニラ山へ御出仕候、小笠ノ弥次郎死

○永正六年己ノミ

此年ハ賣買高シ、秋作ハ吉、秋ヨリ當郡乱入以ノ外、殊ニ河ロヲ焼ク、サレトモ國勢引ル、ナリ、極月ニ下ノ陰斷殿打ル、也、吉田ノ要書記打タル、ナリ、此年當御室ノ上フキヒワタニテフカル、也、又極月十六日須走蓮長寺日壽御死去

○永正七年 庚辰午

此年迄テ乱不及申ニ、去年極月廿五日ヨリ大雪降ル深サ四尺フル、鹿カ死事言ニ不及、此春中國中都留郡ト御和ホク落付、光長寺大坊京都ヨリ三月十二日御下着有之、此郡ノ大麥小麦吉、此年クワレンレイ越後ニテ長尾ノ六郎ニ打タレ玉フ也

○永正八年辛未

此年正月地下侍共ニ喜事無限、浮世ニコウヒハヤリ人民死事無限、然間彼ノコウヒノ鳥ヲツクリ送候、一日ヤミ候テ頓死至候、諸人契約ヲ至候テ酒ヲノム事無限、此年長尾ノ伊賢此郡ヲ武州ヘトバリ威勢ヲ取ラル、也、此八月ヲウワラヘ天空共ヨセテ三時ノ聲ヲ作ル也、村ノ人々皆舌スクミテ物言エス、又富士山カマ岩モエルナリ、此年大風二三度吹テ十分富貴四分三分ニ成り候、國々ノ大水八月出テ耕作損事無限言語道斷也、此年十月廿四日未剋ニ當テ富士大石寺ノ御堂自火ニテ令焼失、前三日ノ間天井ヨリ血ナカレテ焼ト云云、不思議ノ奇瑞也

○永正九年壬午

去年ヨリ賣買無シ、錢モエル故ニ米ハ八十小麦ハ七十賣リ候、三月十八日・十九日雪兩日降積ル事四尺、通路悉トマル、賣買無故ニ世間大ニツマル、シヲハ四十文ニ酒ハ十文ツ、ホ

永正三季

此年春ハ賣買去年冬ヨリモ尚高直也、秋作ハ悉ク吉、但シ春ノツマリニ秋吉ケレトモ、物モツクラヌ者イヨ／＼明シ春迄貧也、此年半ノ頃ヨリモ年号替ルナリ、此年冬雪不降、暖ナル事先代ニモ加様成事無之、湖モ不氷

永正四年

彌勒二年丁卯 此年當國ノ守護殿五郎殿御死去、又御本寺鐘ヲツキ米ノ岩見守ヨリ寄進スル、此人ノ母ノ三十三年ノタメニ六十部ノ寫經供養、二月ヒガンニ門徒ノ衆中皆九字宛之頓寫眼ヲ驚ス

永正五年

此年世間富貴言説ニツクシカタシ、一國二國ナラス日本國中賣買安シ、此年當在寺日運正月十日死去、此年大雨頻ニ而作毛言語同斷惡シ、當山室ノ宮造取持小林尾張入道殿諸國出テ前代未聞ノ事也、此年十月四日武田八郎殿・同子息彌九郎殿・珍寶丸打レサセ玉フ也、此年十月十日日國坊常在寺へ移リ住居ス、此年秋作悉ク惡シ、此極月五日國中ニテ合戰アリ、都留郡人数負ル也、小山田彌太郎殿打死、同心ノ打死無限、然ハ工藤殿・小山田平三殿ニラ山へ御出仕ナリ、小笠原孫次郎死

永正六年

此年ハ賣買高シ、秋作ハ吉、秋ヨリ當郡乱入以ノ外、殊ニ川ロヲ焼ク、サレトモ國勢引ル、也、極月ニ下ノ陰斷殿打ル、也、吉田ノ要書記打ル、也、此年當小室ノ上葺檜皮ニテ葺ル、也、又極月十六日須走蓮長寺日壽御死去

永正七年

此年迄亂不及申ニ、去年極月廿五日ヨリ大雪降深サ四尺、鹿死事云ニ不及、此春中國中都留郡御和睦落付、光長寺大坊京都ヨリ三月十二日御下着有之、此郡ノ大麥小麦吉、此年官領越後ニテ長尾六郎ニ打レ玉フ也

永正八年

此年正月地下侍共ニ喜事無限、浮世ニコ痺流行人民死事無限、然間皮口痺ノ鳥ヲ造リ送ル、一日病テ頓死スル、諸人契約ヲシテ酒ヲ飲ム事無限、此年長尾伊賢此郡ヲ武州ヘ通り威勢ヲ取ラル、也、此八月大原ヘ天狗共寄テ三ヒ時ノ聲ヲ作ル也、村ノ人々皆舌スクミテ物云事アタハス、又富士山ノカマ岩燃ル也、此年大風二三度吹テ十分富貴四分三分ニ成ル、國々大水八月出テ耕作損事無限言語同斷也、此年十月廿四日未剋ニ當テ富士大石寺ノ御堂自火ニテ皆焼失、前三日ノ間天井ヨリ血ナカレテ焼ト云云、不思議ノ奇怪也

永正九年

去年ヨリ賣買ナシ、錢ヲエル故ニ米八十文小麦七十文賣也、三月十八・十九日雪兩日降積事四尺、通路悉トマル、売買無キ故ニ世間大ニツマル、鹽四十文酒十文ツ、ホ

シハ百文四連六連賣ナリ、且紙ハ一連ヲ百五十文ニ賣ナリ、
此年二月時正立正寺ニテ七日御本寺聖人御弘通アリ、雨シ
ケクシテ當海イヨ／＼満チ候、又卯月十九日カミナリ大ニ成
ル、其日酉魁ヨリクラミ法祐寺ノ大門ナル、大相モユル事無
限、是ヲ驚人ミ祈禱託宣スル事無限、浅間大井ハ摩竭埜ト弓
箭ヲ取り大井マケ玉フテ如此、其シルシニモユルト申成候、
如何様ノ物怪也

○永正十季癸酉

此季咳病世間ニハヤル事大半ニ過タリ、錢ヲエル事無限、賣
買ヤンシカウ人ト希也、此年耕サク何ニテモ惡物一本モ無
之、廿十分ニ出來ス、此季天下ニタウモト言ニ大ナルカサ出
テ平癒スル事良久、其ノ形狀ハ癩人ノ如シ、食ハ達者ノヨフ
ニス、ムナリ、當年ハ世間富貴スル事言説ニ不及、錢ヲカタ
クエル間賣買ハ以外ニヤンシ、此年河内ノ穴山道義入道殿子
息清五郎殿ニ打レサセ玉フ、米ハ九月マテ二升五合也、能ク
カエハ三升モ賣也、此年光長寺且方中坂ヲ越申サレ候、高馬
六十九疋人ハ百余人、關所ハ大坊カラクラセ給テスク／＼ト
透ナリ

○永正十一季甲戌

此年賣買悉ヤンシ、米ハ二升五合大豆五升粟同小豆ハ三升稗
ハ八升、賣買ハ自在ナレトモ錢ヲエル程ニ代ニツマル、諸事
ヤンシ、世間アタ、カナル事申ニ不及、霜月・極月雪不降、
冬中一二度フレトモ一寸二寸ヨリ厚ハフラス、此年關東ノ合

セニ乘リ房サ極月打死ハ虚説ナリ

○永正十二年乙亥

此年正月閏月有之、此年迄モ賣買去年ノことク屋志、錢ヲ
エル事未止、他國ハ代ツカイヨシ、此年當國大井殿屋形トノ
合戦十月十七日申魁ナリ、屋形方大勢ナリト云ヘトモ彼城ノ
廻リヲ不被知間、皆深田馬ヲ乗入テ無出打死畢、又其ノ人数
小山田大和守・衛門助殿・尾曾殿・飯實殿、其ノ外随分面々
様二十騎斗、是大将分方々也、其ノ余ハ一二百人打死畢、其
後駿河國ヨリ甲州エノ口々ヲ塞ル、ナリ、重ノ調議可有之、
更ニ不見候、此年ハ十月十二日ノ夜ヨリ雪フリ、大雨ト雪ト
同心ニ降ルニ依テ、大地事外ニ泳リテ芋モホリエス、菜ナン
トモ一本モ取ル間モ無シ、サシ置ニ依テナモ徒ラニスツル、
芋モ如此至候間、中々言語道斷飢饉ト成也、地下ノワヒ事無
申計、此年ハ耕作田畠粟稗惣テ造ル程ノ物ハ何モ惡シ、ギ
ハ、ンスサムキ事前々ニモ過タリ、駿河アサイナ和泉殿此年ノ
十月病死畢、此年岡大坊駿河國府中ニ弘通所ヲ御建立有之、
名ヲ經王院ト、聽テ此年夏中百日ノ間別當様御一人メサレテ
御弘通アリ、所願成就無障等云

●永正十三年丙子

此年モ春ヨリツマル事無限、殊ニ大麦高シ、三升五合ノ賣買
ナリ、未ダ大井殿ト御屋形様ノ取合弥強盛ナリ、駿河ト此
國ノ取合未タ不息、米ハ百文粟ハ賣買無シ、大豆六十小豆七
十文也、自他國ノ路次堅固ニフサカリ未アカス、錢ヲエル事

シ葉百文ニ四連六連賣也、且紙一束ヲ百五十文ニ賣也、
此年二月時正立正寺ニテ七日御本寺聖人御弘通アリ、雨シ
ケク而當海イヨ／＼満ル、又卯月十九日雷大鳴
ル、其日酉魁ニ倉見法祐寺ノ大門ナル、大相燃ル事無
限、是ヲ驚ク人々祈禱託宣スル也、浅間大井ハ摩竭井ト弓
箭ヲ取り大井マケ玉フテ如此、其シルシニ燃ト云也、
如何様ノ物怪也

永正十季癸酉

此年麻疹世間ニ流行事大半ニ過タリ、錢ヲエル事無限、賣
買安シ買人希也、此年耕作何ニテモ惡物一本モ無
之、廿十分ニ出來ス、此年天下ニタウモト云大成瘡出テ平
癒スル事良久、其形譬ハ癩人ノコトシ、食ハ達者ナル人ノ様
ニス、ム也、當年ハ世間富貴スル事言語不及、錢ヲ多
クエル間賣買殊ノ外ニ安シ、此年川内ノ穴山道義入道殿子
息清五郎ニ打タレサセ玉フ、米ハ九月迄貳升五合也、能ク
買ハ三升モ賣也、此年光長寺且方中坂ヲ越申サレ候、馬
六十九疋人ハ百余人、關所ハ大坊カラクラセ玉ウテスク／＼
ト透ルタリ

永正十一季甲戌

此年賣買悉安シ、米二升五合大豆五升粟同小豆三升稗
八升、賣買自在ナレトモ錢ヲエル程ニ代ニツマル、諸事
安シ、世間暖ナル事申不及、霜月・極月雪不降、
冬中一二度降レトモ一寸二寸ヨリ厚ハ不降、此年關東合

戰乘房極月打死云々、虚説也

永正十二季乙亥

此年正月閏月有之、此年迄モ賣買去年ノことク安シ、錢ヲ
エル事未止、他國ハ代ツカヒヨシ、此年當國大井殿屋形トノ
合戦十月十七日申魁也、屋形方大勢ナリトイヘトモ皮城ノ
廻リヲ不知間、皆深田ニ馬ヲ騎入テ無出打死畢又其人数
小山田大和守・右衛門助殿・尾曾殿・飯實殿、其外随分内々
様二十騎計、是大将分方々也、其ノ余ハ一二百人打死畢、其
後駿河國ヨリ甲州ヘノ口々ヲ寒ル、也、重ノ調議可有之トモ、
更ニ不見、此年ハ十月十二日ノ夜ヨリ雪降、大雨ト雪ト
同心ニ降ニ依テ、大地殊ノ外ニ氷テ芋モホリエス、菜ナ
トモ一本モ取ル間モ無シ、サシ置ニ依テ菜モ徒ラニスツル、
芋モ如此致候間、中々言語同斷飢饉ト成也、地下ノ歎ノ事無
申計、此年ハ耕作田畠粟稗惣テ造ル程ノ物ハ何モ惡シ、飢
饉ス寒事前々ニモ過タリ、駿河朝比奈和泉殿此年ノ
十月病死畢、此年岡ノ大坊駿府ニ弘通所ヲ御建立有之、
名ヲ經王院ト号テ、此年夏中百日ノ間別當様壹人メサレテ
御弘通アリ、所願成就無障等云々

永正十三季丙子

此年モ春ヨリツマル事無限ニ、大麦高シ、三升五合ノ賣買
也、未タ大井殿ト御屋形様ノ取合彌強盛也、駿河ト此
國ノ取合未息、米ハ百文粟賣買無、大六十小豆七
十文也、自他國路次堅固ニフサガリ未アカス、錢ヲエル事

弥ヨ、此年ノ七月十二日未ノ尅振動至候、アクル十三日九度動ス、此年極月廿六日巳尅ニ西海右近と平八マテ兄弟三人大石与五郎殿モ打タル、ナリ、サル間宮内丞殿同ク廿九日ニ出陳アルナリ、其後日々合戦ニテ地下ハ皆ミウノ嶋ニテ越年ス、サレトモ日々ノ合戦ニ吉田ノ城ヲ責ルニ城方メテヲ取り、漸ク年モ替ルナリ

○永正十四年 丑

此年正月一日、小林尾張入道殿荒蔵へ出陳シ玉フ、然間正月二日ヨリ城ヲ責ル事強盛ニテ、ツイニ正月十二日夜引申候、サル間先方ツイニ切り勝テ、吉田自他國一和ニ定ナリ、此年極月十五日ヨリ三日雨候テ、前後雪降り積リ已上四尺五寸降候、鳥リケタ物自ラハミ物無ニ依テ皆々餓死ス、言語道斷深雪ニシテ四方路次悉クフサカル、此年ハ賣買ハ何ニモヨシ

○永正十五年 戌

此年六月一日ノ禪定ニアラシ以ノ外ニ至テ導者十三人忽ニ死ス、其ノ内ニ内院ヨリ大ナル熊マ出テ導者ヲ三食殺ス、是ハ熊ニテハ無シ大鬼神ト見ル人有之、余リ不思議サニ書付テ物語ノ為ニ置申候、此年ノ五月駿河ト甲州都留郡ト和睦也、調法者ハ内野渡邊式部丞、他國ノ判者人ハ永池九郎左衛門方・同福嶋道宗入道云々、此年ノ七月十三日大風吹テ作毛悉ク損ス、諸作リ悪シ、其ノ年ノ八月廿六日夜大霜フリテ明日日マテキエス、世間ツマル事無限、秋ノ賣買ハ米ハ六十・七十文也、當國山里ノ米荷ヲ山家へ不通、米ノ賣買此郡一粒モ無之、耕サク如何ニモ実不入、ワラヒヲ九月マテホルナリ、惣テ此年ホリトラス、明ル五月マテホルナリ

○永正十六年 己卯

此年モ錢ヲエルナリノ、此年惣テ一國二國日本國キ、ンシテ諸國及餓死也、當國ノ内ウラノ兵庫殿屋形様ト取合玉フヘキニ定リ、今日ノ明日ノト卯月マテモ不息、賣買ハ米百文粟ハ八十大豆七十モミハ六十五文也、其ノ余ハ更ニ賣買一粒モ無之、就中雜事一本モ無之、冬ヨリ富士へ往復シテイモノカラヲ買越テタヘ候、此年ハ秋作り吉シ、粟ノウリカイ四升、大豆ハ四升小豆三升、惣テ國中富貴スル事無限、甲州府中ニ一國大人様ヲ集リ居給候、上様モ極月ニ移リ御座候、御ミタイ様モ極月御移、此年ノ霜月内野寺ヲ引テ上行寺御立候

○永正十七年 庚辰

此年モ賣買吉、粟四升大豆四升米ハ二升小豆二升五合、夏迄モ賣買候、此年ノ三月府中ニテ以上意ヲ万部ノ法ケ経ヲヨマセ玉フ、又當郡ノサルハシ三月中ニ小山田殿引立テカケ給也、此年吉田上行寺ノ堂供養三月ナリ、法則老僧說道ハ富士ノ所化、一位阿龍衆多ク參テ説法ヲ讚歎スルナリ、此年ノ五月當國ノ栗原殿大將トシテ皆々屋形ヲサミシ奉テ一家人引退玉フ、同六月八日ニ東郡ノ内ミヤケツカニテ軍アリ、上意ノ足衆切リ勝テ其ノ日ニ栗原殿ノ城ヲマク、此年閏六月ノ年也、其後八月十三日ノ夜降、十四日・十五日・十六日・十七日

彌ヨ、此年七月十二日未尅震動致候、明ル十三日迄九度震動ス、此年極月十六日巳尅ニ西海右近ト平八迄兄弟三人大石與五郎殿モ打ル、也、去間宮内丞殿同廿九日ニ出陳アル也、其後日々合戦而地下ハ皆鷗ノ島ニテ越年ス、サレトモ日々ノ合戦ニ吉田ノ城ヲ責ルニ城方メテヲ取ル、漸年モ替ル

永正十四年 丑

此年正月、小林尾張入道殿荒蔵出陳シ玉フ、然間正月二日ヨリ城ヲ責ル事強盛ニテ、終ニ正月十二日夜引申候、去間先方ツヒニ切り勝テ、吉田自他國一和ニ定也、此年極月十五日ヨリ三日雨ニテ、前後雪降り積リ已上四尺五寸降ル、鳥獸自喰物ナキニ依テ皆々餓死ス、言語道斷深雪ニテ四方路次悉クフサカル、此年賣買ハ何ニモ吉

永正十五年 戌

此年六月朔日富士山禪定ニ嵐以ノ外ニ至テ導者十三人忽ニ死ス、其内ニ内院ヨリ大ナル熊出テ導者ヲ三人喰殺ス、是ハ熊ニテハ無シ大鬼神ト見ル人有之、余不思議サニ書付テ物語置申候、此年ノ五月駿河ト甲州都留郡和睦也、調法者内野渡邊式部丞、他國ノ判者人ハ永池九郎左衛門方・同福嶋道宗入道云々、此年七月十三日大風吹テ作毛悉損ス、諸作悪シ、其年ノ八月廿六日夜大霜降テ明日日迄キエス、世間ツマル事無限、秋ノ賣買ハ米六十七文也、當國山里ノ米荷ヲ山家不通、米ノ賣買此郡一粒モ無之、耕作何ニモ實不入、ワラビヲ九月迄ホル也、惣而此年ホリトラス、明ル五月迄ホルナリ

永正十六年 己卯

此年モ錢ヲエル也、此年惣而一國二國ナラス日本國飢饉シテ諸國及餓死也、當國ノ内浦ノ兵庫殿屋形様ト取合玉フヘキニ定リ、今日ノ明日ノト卯月迄モ不息、賣買ハ米百文粟ハ八十大豆七十糶六十五文也、某余ハ更ニ賣買一粒モ無之、就中雜事一本モ無之、冬ヨリ富士郡へ往還而芋ノカラヲ買越テ喰候、此秋ハ作吉、粟賣買四升大豆四升小豆三升、惣而國中富貴スル、甲州府中ニ一國大人様ヲ集リ居結レ、上様モ極月移リ御坐候、御臺様モ極月御移、此年ノ霜月内野寺ヲ引テ上行寺御立

永正十七年 庚辰

此年モ賣買吉、粟四升大豆四升米二升小豆二升五合ニ、夏迄モ賣買候、此年ノ三月府中ニテ以上意万部法華經ヨマセ玉フ、又當郡猿橋三月中ニ小山田殿引立テカケ玉フ也、此年吉田上行寺ノ堂供養三月也、法則老僧說道ハ富士ノ所化、一位阿闍梨衆多ク參テ説法ヲ讀誦スル也、此年五月當國栗原殿大將トシテ皆々屋形ヲサミシ奉テ一家人引退玉フ、同六月八日ニ東郡ノ内ミヤケ塚ニテ軍アリ、上意ノ足衆切勝テ其日ニ栗原殿ノ城ヲマク、此年閏六月ノ年也、其後八月十三日ノ夜降始、十四日・十五日・十六日・十七日

○永正十八年辛巳

迄テフリ作毛悉損ルナリ、此年夏當國ノ大煩殿ヲ屋形ヨリ責給、終ニハマケテ大煩殿城ハカウサン申サル、也、浦ノ殿モ屋形様ヘカウサンアルナリ、霜月大雪フリ候、極月四尺フル、此年駿河勢數万人立テ甲州テ合戦有之、駿河衆悉ク切リマケテ福嶋一門皆ミ打死、甲州ヘ取ルシルン數万騎、霜月廿三日未ノ尅ヨリシテ夜ヲ責メ玉フ、チリノニニクル事無限

此年ノ二月十八日武田殿大原舟津小林宮内蒸殿ヘ御出有之、明ル日中津森ヘ御下候、又河内ヘ八月廿八日惣勢立テヤリシキ其ノ日有之、富士勢負玉フ也、關東モ乘リ房サト河越殿取合不息マ、向陳ハ悉ク大夫ノ手マクルナリ、乘リ舟多ク取ラル、ナリ、此年ノ七月十五日ニ武田ノ八郎殿駿河ヨリ甲州ヘ御歸國有之、當國屋形様ノ御意テ御歸候

○大永二年壬午

此年賣買ヤソシ、此年大石新七郎玄番ヲ打トテ打タル、玄番モ左衛門モ打ル、也、此年當國屋形様身延ニテ御授法御供ノ人數皆々授法云、此ノトシ光長寺大原ニ御座候て本寺ノ所化ヲヨヒ參テ御學文有之、此年ハ作毛事ノ外惡シ、就中粟惡シ、何ニテモ吉物ハ無シ、武田殿富士參詣有之、八要メサル、也、

○大永三年癸未

此年大原ノ莊惣テ都留郡大飢饉無限、米ハ八十文賣買也、此年ノ春中ニ大原代官和泉殿新造皆作給ナリ、此郡ハ春ヨリ富士ヘ行テ續命ヲ、夏ハ大麥吉四升賣買ナリ、此年少童モヲヤム、亦ハイナスリヲヤミ候、大概ハツル、也

○大永四年甲申

此年正月ヨリ陳立初テ二月十一日國中勢一万八千人立テ猿ハシニ御陳ニテ日々ニ御ハタラク候、ヲク三方ヘハタラクヤイクサアリ、此時分乘房ハ八十里御陳ヨセト承候、此年萬事共有之、小猿橋ト云處ニテ度々ノ合戦アリ、此夏末ニ立正寺ハ京都ヨリ御學文メサレ候て御下候

○大永五年乙酉

此年妙法寺建立、此年四月一日諏訪殿府中ヘ御入候てスマイ所望候間、其ノ如望ノ、然間大喜無申計、此年三月廿五日ニクワンレイノリ房御逝去、与當國新九郎御和睦候て錢千貫文當國府中ヘ進上被申候、駿河ト甲州ハ未タ和聞無也、賣買ヨケレトモ錢ニツマル事無限、此年武田殿ト新九郎殿ト合センヒマナシ、府中ハサルカク下ル、日々能御座候、未タツクイノ城ヲチス、當國ト官領又々和睦ナリ、此年米ハ九月迄二升二ハイ入也

○大永六年丙戌

御屋形様在京メサル、ト風聞ス、此年新九郎方ト當國屋形和睦トハ申候ヘトモ未タ和睦ナラス、京ヘハ御立ナシ、其ノ後七月晦日ニカコサカノフモト梨木タイラニテ合戦アリ、須走殿惣テ高田一族皆打死、クロ石入道並ニカツラ山・ミンク殿打死、武田殿勝玉フ也、三嶋ノ高田マテモウチ死、屋形様

永正十八年辛巳

迄降續、作毛悉損ルナリ、此年夏當國ノ大炊殿ヲ屋形ヨリ責結玉ヘハ、負テ大炊殿城ハ降參メサル、也、浦ノ殿モ屋形様ヘ降參アル也、霜月大雪降ル、極月四尺降ル、此年駿河勢數万人立テ甲州テ合戦有之、駿河衆悉ク切負テ福嶋一門皆々打死、甲州ヘ取ルシルン數百騎、霜月廿三日未尅ヨリシテ夜責シ玉フ、散々ニ迄ル事無限

此年ノ二月十八日武田殿大原舟津小林宮内蒸殿ヘ御出有之、明ル日中津森ヘ御下候、又川内ヘ八月廿八日惣勢立テ鍵ツキ其日有之、富士勢負玉フナリ、關東モ乘房ト川越殿取合不息、向陳ハ悉ク丈夫ノ手負ル也、乘舟ヲ多ク取ラル、也、此年七月十五日ニ武田八郎殿駿河ヨリ甲州ヘ御歸國有之、當國屋形様ノ御意テ御歸候

大永二年壬午

此年賣買安シ、此年大石新七郎玄番ヲ打トテ打タル、玄番モ左エ門モ打ル、此年當國屋形様身延ニ而御授法御供ノ人數皆々授法云、此年光長寺大原ニ御坐シテ本寺ノ所化ヲ呼參テ御學文有之、此年ハ作毛殊ノ外惡シ、就中粟凶シ、何ニテモ吉物ハ無之、武田殿富士參詣有之、八嶺ナサル、也、

大永三年癸未

此年大原庄惣而都留郡大飢饉無限、米八十文賣買也、此年春中ニ大原代官和泉殿新造皆作玉フ也、此郡ハ春ヨリ富士郡ヘ行テ命ヲ續ク、夏ハ大麥吉四升賣買也、此年少童モヲヤム、又イナスリヲヤム、大槩ハツル、也

大永四年甲申

此年正月ヨリ陣立初而二月十一日國中勢一万八千人立テ猿橋御陳ニ而日々ニ御働、奥三方ヘ働箭軍アリ、此時分乘房ハ八十里御陳寄ト承リ申候、此年萬事共有之、小猿橋ト云處ニ而度々ノ合戦アリ、此夏末ニ立正寺ハ京都タリ御學文メサレテ御下候

大永五年乙酉

此年妙法寺建立、此年諏方殿府中ヘ御入有テ住居所望スル間、其如望、然間大喜無申計、此年三月廿五日管領乘房御逝去、當國新九郎御和睦シテ錢千貫文當國府中ヘ進上被申、駿河ト甲州ハ未和睦無シ、賣買ヨケレトモ錢ニツマル事無限、此年武田殿ト新九郎殿ト合戦ヒマナシ、府中猿樂下ル、日々能アリ、未津久井ノ城不落、當國ト官領又々和睦也、此年米九月マテ二升二盃入也

大永六年丙戌

御屋形様在京メサル、ト風聞ス、此年新九郎方ト當國屋形和睦トハ申候ヘ共未タ和睦ナラス、京ヘハ御立ナシ、其後七月晦日鹿兒坂ノ麓梨ノ木平ニテ合戦アリ、須走殿惣而高田一族皆打死、黒石入道并葛山・御宿殿打死、武田殿勝玉フ也、三陣島高田迄モ打死、屋形様

ハサルカク呼ビ下シ日々御座候、山中ノ御陣ハ未息マ、其ノ月ノ廿四日マテ打立不絶

○大永七季丁亥

此年信州トモノ殿ニタノマレ給テ信州ヘ立玉フ、彼ノ国一ニ成テトモ殿ノ行方ヲ不知ラ、其ノ後信州一國ノ殿ミノ和睦シテ、トモ殿ヨリ武田殿ヘハ所領ヲ被進候ヲ返サレ候、中津森ノ殿様百ツホニ御家作り玉フ、常在寺ノ御堂モ當年丁亥ノ年建立、六月三日ニ信州ト當國トトモノ殿見ツキ候て御立候處ニ和論ト云、當國ト駿河ト和睦云、為其ノ一國ノ内ヲ走馬ヲ御フレ候、國中万部ノ法ケ經ト御フレ候、御堂三年ト申常在寺ノ立メサレ候、此年菊月立正寺ノ且方山中太郎左衛門五十人ニテ御本寺ヘ御参詣被申候、下向ニハ河口ニテサウシ至候

○大永八季戊子 開元

此年ハ以ノ外ニ大日デリ候、六月・七月・八月マテデリ候、此年ノ五月十六日ニ大雨フリ候て、十七日ニ大水出テ悉ク田畠ヲ損サスナリ、此年ノ三月大原ヘ久遠ヨリ圓乗坊ト申学頭ヲヨヒ越申候てケイコメサレ候、人数十七人、其ノ時分ヨリ日國上人ハクワンラク候て七月マテ色ニ御ヤミ候テ、七月六日丑剋ノ御死去、サル間弟子中力落無限、野邊ヘ御供ノ弟子三十余人、導師ハ御弟子ノ内ニ戒藏坊、又三日ノ御時キ一日頓寫御座候、然ハ野邊ニテハクワンケンメサレ候、此年ノ霜月廿四日ニ本能坊日近死去被申候、賣買ハ米ハ二升五合粟四升大豆四升小豆ハ二升五合賣候、此年御上意ヨリ地下ヘ三年サキハラシツフシ、其ノ以後ヲハ本ナシト御フレ候、サル間地下衆ナケキモアリ喜ヒモアリ、大概ハナケキ被申候、此年武田殿諏方殿ヲ見ツキ候て一國ヲ皆々御立候、サカイニテ合戦アリ、サル間武田殿メサレテ、其ノ時ノヲキワラ備中守打死ス、九月晦日ニカンセン也

○享祿元年己丑

此年ノ春ハ賣買ヤソシ、殊更大麦小麦吉、大麦ハ五升小麦ハ二升一合賣申候、秋ハ何モ十分ニ能御座候、此年國中ヨリ路次フサカリ申候、此年中津森御太方様六月廿日ニ遠州ヘ御越候てア子コト御對面御座、色々ノ奔走ト聞申候、去間來ル十月十八日ニ當國ヘ御歸候、御太方ノ御迎ニハ近習衆百人金ナ作リノ刀ヒトツヤウニキル物ノアカ子ツムキ一ヤウニ百人、富士河ノハタマテ御迎ニ御座候、御歸ニハ和泉殿ニ一夜、入道殿ニ一夜、クラミノ新九郎殿ニ一夜御逗留候て、中津森ヘ御歸候、霜月十五日ニ路次アキ候、其日棟別參候、此年秋世中十分ニ吉、サレトモサカフサカリ候間、米ハ二升五合、大原ニテハ三升十文サシニ賣買申候、大豆ハ五升小豆三升五合粟五升、稗ハ一斗モ賣買候、代一向ニ無御座候、去間錢ケカチト申候、此年ノ二月十日ニ新屋敷ノ薩戸殿打タル、ナリ、此年水上ノ長老シヲノ山ヘ御住候

○享祿三年カノニ寅

此年ハ正月一日ヨリアタ、カナル事無限、雪一粒モフラス、兩日ニニフリ候て道吉シ、此年ノ正月七日越中守同ク國中ノ

ハ猿樂呼下シ日々御座候、山中御陣ハ未息、其月廿四日迄打立不絶

大永七季丁亥

此年信劬トモノ殿ニ被頼玉フテ信劬ヘ立玉フ、皮國一ニ成テ友殿行方ヲ不知ラ、其後信劬一國ノ殿々ノ和睦而、トモ殿ヨリ武田殿ヘハ所領ヲ被進候ヲ反サレハ、中津森殿様百坪ニ御家造リ玉フ、常在寺ノ御堂モ當年丁亥年建立、六月三日ニ信劬ト當國トトモノ殿見繼候而御立候處ニ和談云々、當國ト駿河ト和睦云々、爲其ノ一國ノ内ヲ走馬ヲ御觸候、國中万部ノ法華經ト御觸候、御堂三年申常在寺立メサレ候、此年菊月立正寺且方山中太郎左衛門五十人ニ而御本寺ニ御参詣被下候、下向ニハ河口ニテ掃除致候

大永八季戊子 改元

此年以ノ外ニ大日デリニ候、六月・七月・八月迄デリ候、此年五月十六日ニ大雨降テ、十七日ニ大水出テ悉ク田畠ヲ損ス也、此年ノ三月大原ヘ久遠ヨリ圓乗坊ト云學者ヲ呼メサレテ稽古イタシ候、人数十七人、其時分ヨリ日國上人ハクワンラク候而、七月迄色々ニ御ヤミ候テ七月六日丑剋御死去ノ間、弟子中力落無限、野邊御供弟子三十余人、導師ハ御弟子ノ内戒藏坊、又三日ノ御齋一日頓寫御座候、然野邊ニテハ歌弦メサレ候、此年霜月廿四日本能坊日近死去被申候、賣買米貳升五合粟四升大豆四升小豆二升五合賣候、此年御上意ヨリ地下ヘ三年先ハオシツフシ、其後ヲハ本ナシト御觸候、去間地下衆ナケキモ有喜モ有、大概ハナケキ被申候、此年武田殿諏訪殿ヲ見ツキ候而一國ヲ皆々御立候、境ニテ合戦アリ、去間武田殿負メサレ候、其時萩原備中守打死ス、九月晦日ノ合戦也

享祿二年己丑

此年春ハ賣買安シ、殊更大麦小麦吉、大麦五升小麦貳升一合賣申候、秋ハ何モ十分能御座候、此年國中ヨリ路次フサカリ申候、此年中津森御太方様六月廿日ニ遠州ニ御越候而姉ト御對面御座候、色々ノ奔走ト聞申、去間來ル十月十一日ニ當國ヘ御歸候、御太方ノ御迎ニハ近習衆百人金作刀一樣ニ衣類茜袖一樣百人、富士川ノ端迄御迎ニ出タリ、御歸ニハ和泉殿ニ一夜、入道殿ニ一夜、倉見ノ新九郎殿ニ一夜御逗留候而、中津森ヘ御歸候、霜月十五日ニ路次アキ候、其日棟引參候、此年ノ冬世中十分ニ吉、去共坂塞リ候間、米貳升五合、大原ニテハ三升拾文サシニ賣買申候、大豆五升小豆三升五合稗ハ壹斗賣買、代一向無御座候、去間錢渴飢ト申候、此年二月十日新屋鋪薩摩殿打ル、也、此年水上ノ長老シヲノ山ヘ御住候

享祿三年寅

此年ハ正月元日ヨリ暖ナル事無限、雪一粒モ不降、兩日々ニ降候而道吉、此年正月七日越中守同國中ノ

一家國人猿橋ニ御陣ヲメサレ候、此年ノ春ハ何モ賣買ヤ
シ、米ハ三升粟六升大豆六升小豆四升、稗ハ一斗トモ申
候、大麥六升小麦二升二合賣申候、皆人錢ニツマル事無限、
去間錢ケカチト申候、此年ノ三月立ノ馬場ノ大日堂炎上被レ
食候、同ク大日焼ケメサレ候、此年ノ同月中津森ノ御所炎
上、御前ノカウシモ焼ケ候、此年ノ春ハ弓ヲケイコスル事無
限、然間米藏橋シ此ノ年ノ三月打申候、此年ノ卯月廿三日ニ
ヤツホサカニテ越中殿ト氏繩御カツセン是アリ、打劣ケテ吉
田衆打死至候、此年夏世ノ中吉、六月米ハ二升五合、大豆五
升小豆三升大麦九升、小麦三升賣買申候、此年七月・八月ノ
両月諸國ノ諸神ヲカシマエ人ニ送申事無限、人ニノナヤムコ
ト数ヲシラス、タイカイ死ルナリ、然ハ關東ヨリ河越殿ノ御
重寶ニテ乘リ房ノ上様ウハイ取り御申候て、武田殿ノ御前ニ
ナラシ御申候、此年シ某シ本寺へ參詣申候て、明ル年ノ貳月
マテ住山至候、此ノ年伊東へ參詣申候

○享祿四年辛卯

此ノ年ノ正月廿一日ニヲウ殿・栗原殿屋刑ヲサミシ奉テ、府
内ヲ引退ソキミタケエ馬ヲ御入候、去間浦ノ信本モ御同心ニ
テ御座候、然ハ此人ニ信州ノ諏方殿ヲ憑ミ候て府中へムカイ
メサレ候、河原邊ニテ軍サアリ、浦衆打劣テ栗原兵庫殿・諏
方殿打死ニ被食サ候、打取頭八百計ト云、其ノマ、信州ノ
勢ハ皆ナ引被申候、此ノ年万□ニテ三河守殿打死ニ被レ食サ
候、此ノ年ノ春ル人ミツマル事無限、賣買ハヤソシ、米ハ二
升五合大豆二升五合小豆二升賣買申候、此年少童モノヤム事
無限、千死一生也、大麥ハ五升賣申候、此年ノ七月西ニ當テ
星一ツモエ候、此年某シ本寺へ參詣申候處ニ、折節江州ヨ
リ小猿棄下候て、ナカサハニテ能ヲ致候、猿棄ト申若衆ト申
言語道斷、見物此事ニ候、此ノ年ノ正月御本寺ノ御影堂ノウ
ワフキメサレ候、本願ハ東ノ御坊

○享祿五年壬辰

此年ノ春ハ人ミツマル事無限、雜事一向ナクシテ野ニテ雜事
ヲツム事無限、此ノ年ノ大麥小麦共ニ吉シ、秋キ世中カ吉
シ、日ノテル事無限、此方ニ不限天下皆悉クテリ申候、此年
シムケカウ宗ト云物ノ天下ニハヒコリ候て諸宗ヲセメ申候、
殊更法花宗ヲ一向ニウシナウヘキ談合ヲ被申候、サル間ムケ
カウ宗ハ廿万法花宗ハ五百ハカリ御座候、イツレモ經文ニ身
ヲマカセ候テ弓矢ヲ取り被申候、去ル間法花宗切リ勝チ候
て、ムケカウ宗ヲサンノニセメウシナイ被申候、是ハ京ニ
テノ事テ候、去ル間此ノ事カ天下ニ聞ヘ候テ、ムケカウ宗ヲ
セメウシナウ事無限、此ノ年ノ九月、浦ノ信本武田殿ヘテキ
ヲ被食候、サル間信州ノ衆ヲ大勢頼ミ被食候て浦エコモリ被
食候、去程ニ一國ヲヨセテ浦ノ城ヲセメ被食候、サレトモツ
イニ浦ノ信本劣ケ被食候て、屋刑エカウサン御申候、去間城
ヲ屋形ヘハタシ御申候て、ヒサシタニ御ツメ被食候、一國御
無為ニナリ候、此ノ年ノ八月・九月両月東ニ當テ星シモエ候、
餘リノ不思議サニカキツケ候、此年ノ十月某シ部屋ヲ建立致

一家國人猿橋ニ御陣ナサレ候、此年ノ春ハ何モ賣買安
シ、米三升粟六升大豆六升

小麥貳升二盃賣申候、此年ノ三月騷ケ馬場大日堂焼
ル、同大日モ焼玉フ、此年同月中津森ノ御所焼
ル、御前ノカウシモ焼、此年春弓稽古スル事無
限、米倉橋此年三月掛申候、卯月廿三日

八坪坂ニテ越中殿ト氏綱合戰アリ、打負テ吉
田衆致打死候、此年夏世中吉、六月米二升五合大豆五
升小豆三升大麥九升小麥三升賣買申候、此年七八
ノ兩月諸國諸神ヲ鹿嶋ニ人ニ送申事無限、人ノナヤム
事不知數ヲ、大槩死也、關東ヨリ川越殿御
重寶ニテ乘房ノ上様ヲ奪取申テ、武田殿ノ御乳
ナホシ申候、此年某本寺へ參詣申候而、明ル年二月
迄致住山候、此年伊東へ參詣申候

享祿四年辛卯

此年正月廿一日ニ浦殿栗原殿屋形ヲサミシ奉テ、府
内ヲ引退御嶽ヘ馬ヲ入候、去間浦信本モ御同心ニ
テ御座候、然ハ此人ニ信劔諏方殿ヲ頼候而府中向
メサレ候、河原邊ニテ軍アリ、浦衆打負、栗原兵庫殿・諏
方殿打死被食ト、打取頭八百計云々、其儘信劔
勢ハ皆引被申候、此年万力ニ而三河守殿打死被食
候、此年春人々ツマル事無限、賣買安、米二
升五合大豆二升五合小豆二升ニ賣買申候、此年少童泡ヲヤム
事無限、千死一生也、大麥ハ五升賣申候、此年七月西ニ當テ
星一ト焼、此年某本寺へ參詣申處、折節江劔ヨ
リ小猿棄下候而、ナカサハニテ能ヲ致候、猿棄ト申若衆ト申
言語同斷、見物此事ニ候、此年ノ正月御本寺御影堂ノ
上膏メサレ候、本願東御坊

享祿五年壬辰

此年春人々ツマル事無限、雜事一向無テ野ニテ雜事
ヲ摘事無限、此年大麥小麥共吉、秋世中吉、
日テル事無限、此方ニ不限天下皆悉クテリ申候、此年
ムケカラ宗ト云者天下ニハヒコリテ諸宗ヲ責申候、
殊更法花宗ヲ一向ニ可失談合ヲ被申候、去間ムケ
カラ宗ハ廿万法花宗ハ五百計御座候、何レモ經文ニ身
ヲマカセ候而弓矢ヲ取被申候、去間法花宗切勝候
而、ムケカラ宗散々ニ責失ヒ被申候、是ハ京ニ
テノ事ニ候、此事ガ天下ニ聞ヘ候而、ムケカラ宗ヲ
責失事無限、此年九月、浦ノ信本武田殿ニ敵
ヲ被食候、去間信劔ノ衆大勢頼養候而浦ヘ籠リ被
食候、去程ニ一國寄テ浦ノ城ヲ責被食候、サレトモ終
ニ浦信本劣被食候而、屋形ヘ降參申候、去間城
ヲ屋形ヘ渡シ申候而、ヒサシタニ御ツメ被食候、一國御
無異ニ成候、此年八月・九月両月東ニ當テ星燃ル、
余不思議サニ書付ル、此年十月某部屋ヲ致建立、

候、此ノ年ムケカウ宗ヲタイシメサレ候て、年号ヲ贅イ被食候、此ノ年小山田越中守殿上様御死去被食候、去間此年中、屋村へ御越候て新屋敷ヲ御立候、臈而成就被成候、御上意御ハタマシニ御越被食候、一家国人皆々御越候、此ノ年熊野奈良ヲモムケカウ宗焼キ申候

○天文二年癸巳

此ノ年ノ春ハ此方福貴ス、武田殿御所焼ケ申候、小山田殿ハ七十ツホノ家ヲ御作り國中へ越被食候、此ノ年貳月サルハシ焼申候、同ク四ケ市ハモ焼ケ申候、此年三月十六日夜上吉田皆焼申候、常行寺ハノコリ申候、是ハ仏力ト存候、此年賣買此方ハヤソシ、大原ノ海ノヒル事無限、此年五月・六月・七月・八月マテ大雨フリ候てカウサク悪シ、吉物ハソハマテ也、其ノ余ハイツレモ悪シ、サレトモ賣買ハヤソシ、錢ケカチニテ御座候、此ノ年屋村焼候、此年武田殿河越殿息女ヲムカイ御申候、御トモノ衆中ニ申無計候、此年下吉田方ニ渡邊庄左衛門殿ト水サタ御座候、色ニセキヲラトシツヲトサレツ被食候、去程ニ小山田殿アカリ申候、色ニ様ニノサタ候へ共、ツイニハ下吉田勝チ候

○天文三年甲午

此ノ年正月壬月ニテ候、此ノ春言語道斷餓死至候て、人ミツマル事無限、次ニ疫病ハヤリ候テ、皆々ヤミ申候、サレトモ賣買一切ヤソシ、錢ケカチニテ御座候、此年ノ大麥ハ十分ニ越テ能ク候、此ノ年ハ始ノ年八月ヨリ明ル年ノ四月マテワラヒヲホリ候テ、皆々身命ツキ候、此ノ年ノ秋キ世ノ中十分ニ御座候ヲ、風吹候て三ケ一ノ世ノ中十分申候、サレトモ米ハ三升小豆四升、其ノ余ハイツレモ賣買ヤソシ、此年御本寺ヨリ西蓮院御越候て、本堂ノフキイタラクワチン被成候、去ル間百駄御座候、此年五月ヨリ七月マテイキル事無限、此ノ年霜月當國ノ屋形源太郎殿上様河越ヨリ御越候て、一年御座候てクワイニン被食死去メサレ候、此年ハ雪モ一向フラス

○天文四年乙未

此年正月ヨリタンキニ御座候、貳月大風吹候て皆家ヲソンサシ申候、此年ノ正月四日夜モリノ三郎左衛門自火ニテ三人焼死候、此年貳月廿九日ノヒル常在寺焼申候、造立候て九年ナリテ焼候、此ノ年小林道光御死去、次難義ナル咳病ハヤリ候て皆々死去申候、此ノ年八月廿二日相模ミノ屋形セイツカイ被食候テ人数二万四千、御方ハ二千計テ小山田殿イクサヲ被成、小山田殿劣ケ被食候テ、彈正殿・大輔殿・侍者周防殿・小林左京助殿・下ノ檢斷殿、随分方ニ打死被食候、殊ニカツノマノ人数以上二百七十人打死申候、其ノ日上吉田焼申候、明ル日下吉田焼申候、此ノ年十月妙授死去被申候、世ノ中十分

○天文五年丙申閏月十月

此年正月タンキニ御座候、ナイ細ニユリ申候、正月十四日夜大風吹候て、皆々家ヲソンサレ申候、此年貳月十一日小林和

此年ムケカラ宗ヲ退治メサレ候而、年号ヲ改被食候、此年小山田越中守殿上様御死去被食候、去間此年中、谷村へ御越候而新屋鋪ヲ御立候、頓而成就被成候、御上意御ワタマシニ御越被食候、一家國人皆々御越候、此年熊野余良モムケカラ宗焼申候

〔妙法寺記 下〕

天文二巳

此年春此方福貴ス、武田殿御所焼ル、小山田殿ハ七十坪ノ家ヲ造ル國中越被食候、此年二月猿橋焼申候、此年三月十六日夜上吉田皆焼ル、上行寺ハ残申候、是ハ佛力ト存候、此年賣買此方ハ安候、大原ノ湖ヒル事無限、此年五月・六月・七月・八月迄大雨降テ耕作凶、去共賣買安シ、錢ケカチニテ御座候、此年谷村焼候、此年武田殿川越殿ノ息女ヲムカイ御申候、御供衆中無申計候、此年下吉田方ニ渡邊庄左衛門ト水沙汰御座候、色ニ堰ヲ落シツ落サレツ被食候、去程ニ小山田殿預リ申候、色ニ様ニノ沙汰候へ共、終ニハ下吉田勝テ候

天文三年甲

此年正月閏月、此春言語道斷餓死致候而、人ミツマル事無限、次ニ疫病ハヤリ候而、皆々ヤミ申候、去共賣買一切安シ、錢飢渴ニテ御座候、此年大麥ハ十分ニ越テ能候、此年ハ始年八月ヨリ明ル年ノ四月迄蔵ヲホリ候而、皆身命ヲ繼候、此年ノ秋世中十分ニ御座候ヲ、風吹候而三ケ一ノ世中ト申候、去共米三升小豆四升、其余ハ賣買何レモ安候、此年御本寺ヨリ西蓮院御越候而、本堂ノ臂板ヲ勸進被成候、去間百駄御座候、此年五月ヨリ八月迄イキレル事無限、此年霜月當國屋形源太郎上様川越ヨリ御越候而、一年御座候而懷胎被食死去被食候、此年ハ雪モ一向フラス

天文四乙

此年正月ヨリ喧氣ニ御座候、二月大風吹テ皆家ヲ損ザシ申候、此年正月四日ノ夜森ノ三郎左衛門自火ニテ三人焼死、此年二月廿九日ノ晝常在寺焼ル、造立ヨリ九年日也、此年小林道光御死去、次ニ難義ナル咳病ハヤリテ皆々死去申候、此年八月廿二日相模ノ屋形勢遣被食而人数二万四千、御方ハ二千計テ小山田殿軍ヲ被成候、小山田殿劣ケ被食候而、彈正殿・大輔殿侍者周防殿・小林左京助殿・下ノ檢斷殿、随分方ニ打死被食候、殊ニ勝沼ノ人数以上二百四十人打死申候、其日上吉田焼申候、明ル日下吉田焼申候、此年十月妙授死去被申候、世ノ中十分

天文五丙申閏月十月

此年正月暖氣ニ御座候、事イ畑ニ降申候、正月十四日夜大風吹候而、皆々家ヲ損シ申候、此年二月十一日小林和

泉殿死去被食候、此年四月十日駿河ノ屋形御兄弟死去被食候、去程ニ其ノ年ノ六月八日花蔵殿・福嶋一門皆ナ相模ノ氏繩ノ人数カセメコロシ被申候、去程善得寺殿屋形ニナヲリ被食候、此年五月ヨリ七月マテ雨フリ候て言語道断餓死至シ候、殊更疫病ハヤリ申候、此年六月當国ノ府中ニテ前嶋一門皆上意ニソムキ腹ヲ切り申候、去程ニ一國ノ奉行衆悉ク他國へ越被申候、此年淨泉ノ田地ヲ六郎衛門殿承取被申候、此年小林形部さへもん殿松原サキヲ屋敷ニ御立候、次ニ相模ノ青根カウヲチラシ被食、足ユハヲ百人計御取候、蓮真坊寺焼申候

○天文六年丁酉

此年正月アタ、カニ候、疫病ハヤリ申候、殊更言語道断餓死去候テ賣買ナシ、此年貳月十日當国ノ屋形様ノ御息女様駿河ノ屋形様ノ御上ニナヲリ被食候、去程ニ相模ノ氏繩色々サマタケヲ被食候へ共成リ不申候て、ツイニハ弓矢ニ成候て、駿河國ヲキツマテ焼キ被食候、去程ニ武田殿モ須走口へ御馬ヲ出シ被食候、此年御宿殿此國御越候、出陣ノ案内者ニナリ被食候、此年尾曾殿マンサニテ打タレ玉フ、此年春風細々吹事無限、此年常在寺御堂拾月十日卯尅ニ立チ申候、次ニ河越殿サカミノ屋形ニ城ヲトラレ給、去程ニ松山ヲコシラエ御座候、此年童子共モヲ致候事無限、然ハ拾月十六日ヨリ雪フリ候てサムキ事近年無シ、下吉田ク子キヲ皆々御切り候、駿河屋形ト氏繩ノ取合未タ不止、

○天文七年 ツチノエ戌

此年ノ正月十七日ノ夜大風吹キ候て、其ノ後チ貳月三月大風度々吹申候、去間冬ノサムサニ大麥ヌケ候て一向無御座候、此方ニ不限大原モカイソン無御座候、此春モ皆人餓死致候てツマル事無限、此年マテモ甲州ト相州ノ取合不止マ、小麥ノ草サライハ能ク御座候、此年ノ十月十二日ノ夜須走殿・ハカ殿談合候て上吉田へ夜懸ヲ被成候、然ハ一宿ノ方々由断候て悉ク打殺サレ候、又此年ノ五月十六日ノ夜新宿ヲ夜懸ケニ被至候、吉田宿中ノヲトナ衆ハ下吉田河原ニ在所被成候、其後武田殿氏繩和談候て吉田へ御歸リ候ヨリ下吉田平次殿御供也

○天文八年己亥

此ノ年モ未タ兩國ノ取相不ス止マ、然秋世中半分、此年道者下吉田ニテ御ツケ候、法花堂ニハ関ヲ取り宿ヲ取り被申候、在所ノ六ヶ敷御座候事無限、此ノ年ノ冬ハアタ、カニ御座候てタミモ喜ヒ申候、此年極月十五日ニ大風吹キ候て大水出テ候、此年ノ拾月小林形部さへもん殿松山ヲ御立テ候、大原富貴、此方ハケカチト見エ候

○天文九年庚子

此ノ年ノ春ハ賣買ヤソシ、殊更ニ大麥十分ニ越シ候、賣買ハ六升小麥ハ二升五合カイ申候、五月・六月大雨フリ候て世中サシノニ候處、又八月十一日ノ暮程ニ大風吹キ候て、亥尅マテ三時吹キ申候、大海ノハタハ皆浪ニ被引、山家ハ大木ニ打破殺、堂寺宮悉ク吹キタラシ申候、地家ノ家ハ千ニ一万ニ一御座候、鳥リケタ物皆々死ニ申候、世間ノ大木ハ一本モ御座

泉殿死去、此年四月十日駿河ノ屋形御兄弟死去被食候、去程ニ其年六月八日花倉殿・福島一門皆相模氏繩ノ人数ガ責コロシ被申候、去程ニ善待守殿屋形ニナホリ被食候、此年五月ヨリ七月迄雨降候而言語同断餓死、殊更疫病ハヤリ申候、此年六月當國府中ニテ前島一門皆上意ソムキ腹ヲ切申候、去程ニ一國奉行衆悉他國へ越被申候、此年淨泉ノ田地ヲ六郎左衛門殿請取被申候、此年小林形部左衛門殿松原サキヲ屋鋪ニ御立候、次ニ相模ノ青根ノカラヲチラシ被食候、足弱ヲ百人計御取候、蓮真坊寺焼申、

天文六丁酉

此年正月喧ニ候、疫病ハヤリ申候、殊更言語同断致餓死候而賣買ナシ、此年二月十日當國屋形御息女様駿河ノ屋形ノ御上ニナホリ被食候、去程ニ相模ノ氏繩色々サマタケ被食候へ共成リ不申候而、終ニハ弓矢ニ成候而、駿河國ヲ奥津迄焼被食候、去程ニ武田殿モ須走口へ御馬出シ被食候、此年御宿殿此國御越候、出陣ノ案内者ニ成被食候、此年尾暮殿滿座ニテ打タレ玉フ、此年春風再々吹事無限、此年常在寺御堂十月十日卯尅ニ立申候、次ニ河越殿相模ノ屋形ニ城ヲ取ラレ玉フ、去程ニ松山ヲ拵御座候、此年童子共抱ヲ致候事無限、然ニ十月十六日ヨリ雪降候而寒キ事近年ニ無シ、下吉田ク子木ヲ皆々切候、駿河屋形ト氏繩ノ取合未止

天文七 戌ツチノエ

此年正月十七日夜大風吹候而、其後二月・三月大風度々吹申候、去間冬ノ寒ニ大麥ヌケ候而一向無御座候、此方ニ不限大原モ皆損シ無御座候、此春モ皆人餓死致シ候而ツマル事無限、此年迄モ相易申弔ノ取合不止、小麥草生ハ能御座候、此年十月十二日夜須走殿・ハカ殿談合候而上吉田へ夜懸ヲ被成候、然ニ一宿ノ旁曲断候而悉打殺サレ候、又此年五月十六日夜新宿ヲ夜懸被致候、吉田宿中ノオトナ衆ハ下吉田河原ニ在所被成候、其後武田殿氏繩和談候而吉田へ御歸、

天文八 己亥

此年モ未タ兩國取相不止、然秋世中半分、此年導者ニ下吉田ニテ附候、法花堂ニハ關ヲ取宿ヲ取被申候、在所六ヶ鋪御座候事無限、此年冬ハアタ、カニ御座候而、民モ喜申候、此年極月十五日ニ大風吹候而大水出テ候、此年十月小林形部左衛門殿松山ヲ御立テ候、大原富貴此方ハケカチト見候

天文九 庚子

此年春賣買安シ、殊更大麥十分ニ越候、賣買六升小麥貳升五合買申候、五月・六月大雨降候、世中サシノニ候處、又八月十一日ノ暮程ニ大風吹候而、亥尅迄三時吹申候、大海端ハ皆浪ニ引レ、山家ハ大木ニ打破ラレ、堂寺宮悉吹タフシ申候、地下ノ家ハ千ニ一万ニ一御座候、鳥獸皆死申候、世間ノ大木ハ一本モ無御座

ナク候、去程ニ世ノ中ノ事申ニ不及候、殊ソイ物一向無御座候、淨泉寺モ吹キタヲシ申候、取訪ノトリイヲモ吹キタヲシ申候、取訪ノ松ヲハ一万木計ト承候、此年五月ヨリ武田殿信州へ取懸被食候、去程ニ弓矢ニ切勝被食候て、一日ニ城ヲ三十六落シ被食候ト聞エ候、去レトモサクノカラリト申候ヲ御手ニ入レ候、小山田殿ノ代トシテ小林宮内助殿モ一城ヲカマエ申候、去間此方ノヨリコ近付陣立シケク御座候て、皆ミ迷惑至候、此年霜月八日サルハシカ、リ申候、下ノ奉行實次・同白洲平治郎小山田代として、此年七月御本寺參詣申候て坊号ヲ給候、人数ハ十人計ニテ候、殊大石ヨリ寺ヲ買候て當寺ヲ立テ申候、此年武田殿御息女様信州ノ取訪殿御前ニ御ナハリ候、此年鎌倉ノ若宮八幡ノ御遷宮、霜月十五日伊勢新九郎殿氏繩ノ御本願ト申傳へ候、殊雪フラス

○天文十年 丑辛

此年春ル餓死至候て人馬共ニ死ル事無限、百年ノ内ニモ無御座候ト人々申来リ候、千死一生ト申候、此ノ年ノ六月十四日ニ武田大夫殿様ヲヤノ信虎ヲ駿河ノ国ヘヲシ越シ御申候、餘ニ惡行ヲ被成候間カヤウニ被食候、去ル程ニ地家侍イ出家男女共ニ喜満足至事無限、信虎出家被食候て駿河ニ御座候、此ノ年七月十七日相模ノ屋形氏繩御死去被食候、此年ノ八月・九月度ミ大風吹候て世ノ中一向惡ク御座候

○天文十一年 子壬

此ノ年ノ六月信州取訪殿へ取り懸ケ被食候、武田殿切り勝チ被食候て、取訪殿生ケ取ニ被成候て、府中ニテ腹ヲ兄弟御切り候、又同年ノ七月信州ノイナエ取り縣ケ被食候、イナ衆切リ劣ケテ取ルクヒ三千ト聞エ申候、此年ノ秋世ノ中一向惡ク候て大風三度マテ吹シ申候、人々餓死候事無限、サレトモ賣買ヤソシ、錢ケカチニテ御座候、ナラヘテ三年餓死至候

○天文十二年 卯癸

此年ノ正月ヨリ賣買ヤソシ、米ハ百文ニ今升四升賣買申候、其外物ノヤスキ事無限

○天文十三年 辰甲

此ノ年ノ春世間福貴致候、大麥一切惡ク御座候て、夏ツ餓死致候、殊秋世中サンノニチカイ候て、世間ノ人々餓死致候事無限、不思議ニソイ物能ク候て、ホシハニテ身命ヲツキ申候、此ノ年極月ニ小林宮内助殿與衆相模ノ屋形ヘ氏貞様へ御參候、御トモノ方ニ刀ヲ悉ク金子ツクリニ致被申候、去程ニ小田原ニテモカヤウナルキラメキハ、早雲以後ハ見不申候ト風聞致候

○天文十四年 巳乙

此年ノ正月度ミ大風吹キ申候、餘ノ不思議サニ書付ケ申候、此ノ年ノ春ル人々ツマル事無限、二月十一日富士山ヨリ雪代水ヲシ候て、吉田ヘヲシカケ人馬共ニヲシナカシ申候、殊ニ其ノ水ニテ下吉田ノ冬水ノ麥ヲ悉クヲシナカシ申候、アイノコリ候大麥小麦吉シ、此ノ年五月・六月・七月マテ雨一度モフラス、色々ニ雨ヲコイ候へ共一雨モフラス、草ライハ廿分

候、去程ニ世中ノ事申ニ不及候、殊ノイ物一向無御座候、淨泉寺モ吹タフシ申候、諏方ノ鳥居ヲモ吹タフシ申候、諏方ノ松ヲハ一万木計ト承候、此年五月ヨリ武田殿信

劾へ取懸被食候、去程ニ弓矢ニ切勝食候而、一日ニ城ヲ三十六落シ被食候ト聞エ候、去共佐久郡ト申候ヲ御手ニ入候、小山田殿ノ代ト而小林宮内助殿一城ヲカマヘ候、去間此方寄子近付陣立シケク候而、皆ミ迷惑イタシ候、此年霜月八日猿橋掛リ申候、此年七月御本寺へ參詣申候而坊号ヲ賜候、人数千人計ニ而候、殊大石ヨリ寺ヲ買候而當寺ヲ立テ申候、此年武田殿御息女信劾方殿御前ニ御ナホリ候、此年鎌倉若宮八幡御遷宮、霜月十五日伊勢新九郎殿氏繩ノ御本願ト申傳之候、殊雪フラス

天文十 丑辛

此年春致餓死候而人馬共死ル事無限、百年ノ内ニモ無御座候ト人々申来リ候、千死一生ト申候、此年六月十四日ニ武田大夫殿様親ノ信虎ヲ駿河國ヘ押越申候、余リニ惡行ヲ被成候間加様被食候、去程ニ地下侍出家男

天文十 寅壬

此年六月信劾諏方殿へ取懸被食候、武田殿切勝被食候而、諏方殿ヲ生取ニ被成候而、府中ニテ腹ヲ兄弟御切り候、又同年七月信劾伊奈へ取懸被食候、伊奈衆切劣テ取首三千ト聞エ申候、此年秋世中一向惡ク候而大風三度迄吹申候、人々餓死候事無限、去レ共賣買安シ、錢飢渴ニテ御座候、並テ三年致餓死候

天文十二 卯癸

此年正月ヨリ賣買安シ、米百文ニ今升四升賣買申候、其外物ノ安事無限

天文十三 辰甲

此年春世間福貴致候、大麥一切惡ク御座候而、夏餓死致候、殊秋散々チカヒ候而、世間ノ人々餓死致候事無限、不思議ニソイ物能候而、干葉ニテ身命ヲ繼申候、此年極月小林宮内助殿相模屋形氏貞様へ御參候、御供ノ旁刀ヲ悉金作ニ致シ被申候、去程ニ小田原ニテモ加様成キラメキハ、早雲以後ハ見不申候ト致風聞候

天文十四 巳乙

此年正月度ミ大風吹申候、余リ不思議サニ書付申候、此年春人々ツマル事無限、二月十一日富士山ヨリ雪シロ水オシテ、吉田ヘオシカケ人馬共押流シ申候、殊ニ其水ニテ下吉田冬水麥ヲ悉押流申候、相殘候大麥小麦吉、此年五月・六月・七月迄雨一度モフラス、色々雨ヲ乞候へ共一雨モ不降、草オヒハ廿分

ニ越へ申候、此ノ年武田晴信様ハ信州ノ見野輪殿ノ城ヲ御責
メ候、卯月ヨリ五月六月マテ御責メ候、サレトモヲチ不申
候、勝ッ沼ノ相州・小山田羽州・河内ノ穴山殿ノ御アツカイ
ニテ和談ニテ御歸陣被成候、見野輪殿ノ舍弟權次殿ト申候ヲ
人質ニ御入候、此ノ年ノ八月ヨリ駿河ノ義元ヨシ原へ取カケ
被食候、去程ニサカミノ屋刑ヨシ原ニコモリ被食候、武田春
信様御馬ヲヨシ原へ出シ被食候、去程ニサカミノ屋刑モ大義
ニ思食候て三嶋へツホミ被食候、諏方ノ森ヲ全ニ御モチ候、
武田殿御アツカイニテ和談ニ被成候、去程ニ駿河ノ分國ヲハ
取カエシ被食候、其ノ時御本寺悉ク打ヤフリ、坊住モ悉ク打
チラサレ候、沼津ノ本光寺モ悉ク焼ケ申候、御本寺別當様ハ
大原ニテ越年被成候

○天文十五年丙午

此ノ年ノ七月五日ニ大雨フリ大水出テ候、此近邊ノ山クツレ
候て、田地作モウ悉クヲシナカシ申候、殊ニヲタレノ田地悉
クヲシナカシ申候、又十五日ノ夜大風吹候て、サクモウ悉
ク吹コホシ申候、去程ニ世間悉ク餓死致候て不及言説、サレ
トモ賣買ハヤソシ、此年信州ノサクノカウリシカ殿ノ城ヲ甲
州ノ人数信州ノ人数悉ク談合被成候て取懸ケ被食候、去程ニ
シカ殿モ随分ノ兵モ共ヲ御持候、又常州ノモロオヤニテ御
座候高田方、シカ殿ヲ見ツキ候て、城ニコモリ被食候、去程
ニ又常州ノ随分ノ旁々高田ヲ見付候て、浅サ間ノタケノ廻リ
ニ御陣ヲ御取り候、去程ニソレヲ目懸ケ候て、イタカキ駿
河守殿・甘利備前守殿・ヨコタ備中守殿・タノノ三八殿、其
ノ外打ムカイ軍サ被成候、去程ニ常州ノ人数切リ劣ケ候て、
名大將十四五人打取ル、雑人三千ハカリ打取ル、此クヒヲシ
カノ城ノ廻リニ悉ク御懸ケ候、是ヲ見テ要カイノ人数モ力ヲ
失ナイ申候、去程ニ城ニハ水ニツマリ申候、常州人数トカッ
セシハ八月六日、シカノ要カイハ八月十一日ニ依田一門・高
田一族・シカ殿御内ヲハカラウ平六左衛門尉兄弟八人、去
ル間以上打死三百計リ、シカ殿御上ヲハ小山田羽州給テ駒
シエ御同心御申候、去程ニ男女ヲ生ケ取りニ被成候て、悉ク
甲州エ引越申候、去程ニ二貫三貫五貫十貫ニテモ身類アル人
ハ承ケ申候

○天文十六年丁未

此年モ信州ト甲州取合不止、一年二度ノ動キ被成候、ハヤ奉
公ノ人ミハ信州ノ御陣ニ迷惑致候て不及言説、此ノ年モ世ノ
中カ半分ハナレトモ、銭ケカチニテ御座候間、賣買ハヤソ
シ、世間ツマル無限、此ノ年當寺ノハフキ致候

○天文十七年戊申

此年世中廿分ニ越エタリ、惣シテ大地エヲトス程ノ物ハ一切
吉、世間福貴スル事不及言説、賣買ニ米五升粟一斗大豆同ク、
大麦一斗ソハ一斗二升、去程ニ六月ノ道者ハ十年ノ内ハナク
御富士へ参詣申候、此年ノ貳月十四日ニ信州村上殿ノ近所ニ
塩田原ト申所ニテ、甲州ノ春信様ト村上殿カンセン被成候、
去程ニタカイニ見合テ河ヲコタテニ取り候て、軍ヲイレツ見

ニ越申候、此年武田晴信様ハ信劔箕輪殿ノ城ヲ御責
候、卯月ヨリ五月・六月迄御責、去共落不申
候、勝沼ノ相劔・小山田甲州・川内ノ穴山殿御アツカヒ
ニテ和談ニ御歸陣被成候、箕野輪殿舍弟權次殿ト申候ヲ
人質ニ御入候、此年八月ヨリ駿河ノ義元吉原へ取懸
被食候、去程ニ相摸屋形吉原ニ守リ被食候、武田晴
信様御馬ヲ吉原へ出シ被食候、去程ニ相摸屋形モ大義
思食候而三島へツホミ被食候、諏方ノ森ヲ全ニ御モチ候、
武田殿御アツカビニテ和談被成候、去程ニ駿河分國ヲハ
取返シ被食候、其時御本寺悉ク打破リ、坊住モ悉ク打
チラサレ候、沼津ノ本光寺モ悉ク焼申候、御本寺別當様ハ
大原ニテ越年被成候

天文十五年丙午

此年七月五日大雨降大水出、此近邊山クツレ
候而、田地作モ悉ク押流シ申候、殊ニヲタレノ田地悉
クヲシナガシ申候、又十五日夜大風吹候而、作モ悉
ク吹コホシ申候、去程ニ世間悉ク餓死候而不及言語ニ、去
共賣買安シ、此年信劔佐久郡シカ殿城ヲ甲
劔ノ人数信劔人数悉談合被成候而取懸被食候、去程
シカ殿モ随分ノ兵共ヲ御持候、又常劔ノモロオヤニテ御
座候高田方、シカ殿ヲ見繼候而、城ヲ守リ被食候、去程
ニ又常劔随分ノ旁々高田ヲ見付候而、浅間嶽廻
御陣ヲ取候、去程ニソレヲ目懸候而、板垣駿
河守殿・甘利備前守殿・横田備中守殿・多田野三八殿、其
外打向軍被成候、去程ニ常劔人数切劣候而、
名大將十四五人打取、雑人三千計打取、此首ヲシ
カ城廻悉御懸候、是ヲ見テ要害ノ人数々力ヲ
失ヒ申候、去程ニ城ハ水ニツマリテ、常劔人数ト合
戦ハ八月六日、シカ要害ハ八月十一日依田一門・高
田一族・シカ殿・御内ハカロウ平六左衛門尉兄弟八人、去
間以上打死三百計、シカ殿御上ヲハ小山田羽劔給テ駒橋
へ御同心申候、去程男女イケトリ被成候而、悉
甲劔へ引越申候、去程ニ二貫三貫五貫一貫ニテモ身類アル人
ハ承ケ申候

天文十六年丁未

此年モ信劔甲劔取合不止、一年二度ヲ働キ被成候、ハヤ奉
公ノ人々ハ信劔御陣ニ迷惑致候而不及言語、此年世
中半々ナレトモ、銭飢渴ニテ御座候間、賣買安
シ、世間ツマル無限、此年當寺ノ破霄イタシ候

天文十七年戊申

此年世中十分ニ超タリ、惣而地へ落ス程ノ物ハ一切
吉、世間富貴ナル事不及言説、賣買ハ米五升粟壹斗大豆壹斗、
大麥壹斗蕎麥壹斗二升、去程ニ六月導者ハ十年ノ内ニハ無
御富士参詣申候、此年二月十四日信劔村上殿近所
鹽田原ト申所ニ而、甲劔晴信様ト村上殿合戦被成候、
去程ニタガヒニ見合テ川ヲ小橋ニ取候而、軍ヲイレツ亂

タイツ被食候、去程ニ甲州人数打劣テ、イタカキ駿河守殿・
甘利備前守殿・才間河内殿・ハシカ子伝衛門尉殿、此ノ旁ミ
打死ニ被成候て、御方ハカヲトシ被食候、サレトモ御大將ハ
本陣ニシハラフマイ被食候、小山田出羽守殿無比類動被成
候、御上意様モカセテヲ、イ被食候、去間一國ノナケキ無シ
限、サレトモ軍不止、此年七月十五日信州ノシヲシリトウケ
ニ小笠原殿五千ハカリニテ御陣ヲ被成、甲州人数アサカケナ
サレ候て、悉ク小笠原殿人数ヲ打殺シ被食候、去程ニ取ツメ
候て村上殿近所ニ村井イト申要カイヲ取立テ候て、繁昌被成
御持チ候、此年ノ八月十八日ニサクノコウリノ田ノロト申要
カイエ小山田出羽守殿大將トシテ御動キ候、去程ニ信州ノ人
数甲州衆ヲコノ内ノ鳥ノヤウニ取りコメ申シ候ヲ、色々調義
被成候て、来ル九月十二日御上意ノ御馬ヲ出タサセ御申候て
合イカラニ被成、サクノカウリノ大將ヲ悉ク打殺ス、去程ニ
打取ル其ノ数五千計、男女生取数ヲ不知、ソレヲテキワニ被
成候て、甲州ノ人数ハ御馬ヲ御入候

○天文十八年己酉

此年ハ世中半分ニテ御座候、サレトモ毎年ノ福貴カ此年マテ
ツヨリニ成リ候て、賣買ハ申ノ年ヨリ弥ヨヤスシ、此年ノ卯
月十四日ノ夜中ノ比、ナイユリ申候事言語道断不及言説候、
五十二年サキノナイ程ト申傳ヘ候、餘リノ不思議サニ書付申
候、以上十ヶハカリユリトヲシニユリ申候、此年ノ菊月四日
常在寺坊主日周死去被申候、サレトモ御堂ハ造榮成リ申候、

本願ハ法光坊ニテ御座候、此年ノ霜月武田殿・小山田殿談合
被成候て、地下ヘ悉ク過料錢ヲ御懸ケ候、殊更ニ寺々祢宜
何様ノ奈流物ニモヲシナヘテ御カケ候、去程ニ地下衆ナケク
事無限、此年霜月下浅間ハイテン造榮被成候、番匠アツカイ
ヲハ法理衆致候

○天文十九年カノエ戊

此ノ年春ル錢ヲエル事不及言説、六月ヨリ大雨フリ候て水出
テ候、七月八月大雨大風吹キ候て世間餓死致候事無限、此ノ
年ノ九月一日ニ信州ノトイシノ要カイヲ御ノケ候トテ、横田
備中守ヲ始トシテ随分衆千人計リ打死被成候、サレトモ御大
將ハ能ク引キ被食候、此アタリテハコサハ式部殿・渡邊雲州
打死致候、タウ分ハ國中皆捨テ候、ナケキ言語道断無限、サ
レトモ信州ノ取合不止、此ノ春中少童共モヲヤミ候て皆々死
ル事不及言説、下吉田ハカリニテ五十人計リ死ニ申候、餘ノ
事ニ書付申候、此ノ年ノ三月覺輪坊常在寺御ウツリ候、去程
ニクリ御造リ候

○天文廿年 辛亥

此年ノ春中、去年ノ餓死ニ人ノツマル事言語道断無申計リ、
人ノカツエ死ル事無限、ハラヒヲ貳月ヨリシテ五月マテホリ
申候、大カイハラヒニテ物ヲ作り申候、大麥廿分ニ能御座候
ヘトモ、春ノツマリカ打ツ、キ候間、四配入ニテ六升賣申
候、小麥三升十文ツ、賣買申候、此年マテモ信州當國取合不
止、八月朔日御陣立申候、此ノ年ノ正月廿四日ニ松山ノ宿焼

レツ被食候、去程ニ甲州人数打劣ケ、板垣駿河守殿・
甘利備前守・才間河内守殿・初鹿根傳右衛門殿、此旁
打死被成候而、御方ハカヲ落シ被食候、去共御大將ハ
本陣ニシハラ踏ミ被食候、小山田出羽守殿無比類動被成
候、御上意様ニカセデヲオヒ被食、去間一國ノ歎キ無
限、去共軍不止、此年七月十五日信州塩尻嶺

ニ小笠原殿五千計ニ而御陣被成候ヲ、甲州人数朝懸
被成候而、悉ク小笠原殿人数ヲ打殺シ被食候、去程ニ取結
候而村上殿近處ニ村井ト申候要害ヲ取立候而、繁昌被成
御持候、此年八月十八日ニ佐久郡田ノロト申候要
害ヘ小山田出羽守殿大將御働候、去程ニ信州人
數甲州衆ヲ籠ノ内ノ鳥ノ様ニ取籠申候ヲ、色々調義
被成候而、来ル九月十二日御上意御馬ヲ出サセ申候而
合力ニ被成、佐久郡大將ヲ悉打殺ス、去程ニ
打取其數五千計、男女生取數ヲ不知、ソレヲ手柄ニ被
成候而、甲州人数ハ御馬ヲ御入候

天文十八己酉

此年ハ世中半分ニ而御座候、去共前年ノ富貴此年迄
ツヨリニ成候而、賣買ハ申ノ年ヨリ彌安シ、此年卯
月十四日夜中頃、ナ井ユリ申候事無限言語同断不及申候、
五十二年サキノナ井程ト傳ヘ候、餘リノ不思議サニ書付申
候、以上十日計ユリトホシニユリ申候、此年菊月四日
常在寺坊主日周死去被申候、去共御堂ハ造營成申候、

本願ハ法光坊ニ而御座候、此年霜月武田殿・小山田殿談合
被成候而、地下ニ悉く過料錢ヲ御懸候、殊更寺々禰宜
如何様成者ニモ押並テ御懸候、去程ニ地下衆歎
事無限、此年霜月下浅間拜殿造營被成候、番匠扱
ヲハ祝衆イタシ候

天文十九戊戌

此年春ル錢ヲエルコト不及言説、六月ヨリ大雨降候而水出
候、七月・八月大雨大風吹候而世間致餓死ノ事無限、此
年九月一日ニ信州戸石ノ雲戒ヲ御ノケ候トテ、横田
備中守ヲ始トシテ随分衆千人計リ打死被候、サレ共御大
將ハ能引被食候、此アタリテハ小澤式部殿・渡邊雲
致打死候、遠クハ國中皆捨候、歎キ言語同断無限、サ
レトモ信州ノ取合不止、此春中少童共抱ヲヤミ候而皆々死
事不及言説、下吉田計ニテ五十人計死申候、余リノ
事ニ書付申候、此年三月覺輪坊常在寺ヘ御移申候、去程
ニ庫裏御造リ

天文二十辛亥

此年春中去年ノ餓死ニ人ノツマル事言語道断無申計、
人ノ餓死ル事無限、歳ヲ二月ヨリシテ五月マテホリ
申候、大槩歳テ物ヲ作り申候、大麥廿分ニ能御座候
ヘ共、春ノツマリガ打續候間、四配入ニテ六升賣申
候、小麥三升十文ツ、賣買申候、此年迄モ信州當國取合不
止、八月朔日御陣ヘ立申候、此年正月廿四日ニ松山宿焼

ケ候、刑了殿ノ家ハ焼不申候、此年世中惡ク御座候て、猶ヲ世間ツマル事無限、此ノ年ノ霜月信州小笠原ニテヒラセノ要カイヲセメヲトシ給、去程ニ當所ヨリモ弥三郎殿ハ御被官衆ニ番積リニ陣立申候、又此年地下衆へ過料錢ヲ御懸候、中ミ地下衆ナケキ無申計候、皆ミ所ヲアケ申候

○天文廿一年壬子

此年ノ正月廿三日ニ小山田出羽守殿御死去被成候、同ク廿五日申尅ノ送御供ノ人衆一万人ニテ送り被食候、□法花宗郡内一番ノ御訪被成候、此ノ年正月風モ不吹アタ、カニ御座候、此ノ年ノ七月御本寺ヨリ御大事ヲ越御申候、去程ニ談義被成候て、其上御本尊懸ケ御申候、信心ノ男女出家參錢ナケ候事中ニ言説ニ不及候、悉クカヘヲ打ヤフリ申候、去程ニ皆ナカソルイヲ流シ候、其ノ上若キ出家衆二十六人ニ坊号授ケ候、後代ニハ有ル間敷候間書付候、此ノ年モ信州へ御動キ候、小岩タケト申要害ヲセメヲトシ被食候、打取ル頭五百余人、足弱取ル事数ヲ不知候、此年吉田ノトモヤニツツツカノ宮内さへもん殿屋形ノ御藏ヲ被立候、去程ニ當寺ノ御本尊ヲ此年ノ菊月八日造リ申候、本願ハ本行坊日祐取立テ申候、同ク鬼子母神ヲモ造リ申候、此年弥八方トモヤニ家ヲ廿四ツホニ作り被申候、此年ノ世ノ中草サツイハ廿分ニ越申候力、風不吹ヲキテハ能御座候て作毛ニ実不入ラ候、此年霜月廿七日ニ駿河義元ノ御息女様ヲ甲州ノ晴信様ノ御息武田大郎殿様御前ニナラシ被食候、去程ニ甲州ノ一家國人キラメキ不及言説、武

田殿人数ニハサラニノシツケ八百五十腰、義元様ノ人数ニハ五十腰御座候、コシハ十二丁長持廿カ、リ、女房衆ノ乗鞍馬百ヒキ御座候、兩國ヨロコヒ大慶ハ後代ニ有間敷候、其ノ中ニモ小山田弥三郎殿一國ニテ御勝レ候

○天文廿二年癸丑

此年世ノ中廿分賣買イツレモ安シ、六月道者富士へ參詣申候事不及言説、去程ニ代ツカイ能ク御座候、近年ニ無御座候、此年信州村上殿八月鹽田ノ要害カイヲ引ノケ行方不ニ知御ナリ候、一日ノ内ニ要害カイ十六ヲチ申候、分取り高名足シ弱ハ生ケ取ニ取申候事後代ニ有間敷候、日ノ照リ申候事五月ヨリ八月九月マテ照リ候て水皆ヒ申候テ、此方ノ冬水チカイ申候、去程大麥チカイ申候、サレトモ賣買一斗小麦四升賣申候、此年シ出家禰宜衆地下衆ノ主モチ不申候者、過代錢ヲ懸ケ候て、皆ミナケキ申候事不及言説ニ

○天文廿三年甲寅

此年正月雪水富士山ヨリ出テ申候事、正月貳月三月マテ十一度出テ申候、餘ノ不思議サニカキツケ申候、世間ノ福貴致候事先代ニ無御座候、六月道者ハ無御座候、代ヲエリ申事先代未聞ニ無御座候、去程ニ賣買ハヤソク候へ共、錢ケカチニテ候、此年ノ草サツイ三十年以来ニ無御座候、人ミナヤミ申候無限、ハラヲ煩イ候てタイカイ死去申候、此年ノ七月駿河ノ屋形様へ相州ノ屋形様ノ御息女様ラムカイ御申候、御供ノ人数ノキラメキ色ミノモチタウク、我々ノ器用程被成候、去程

申候、刑了殿家ハ焼不申候、此年世中惡ク御坐候而、尚世間ツマル、此年霜月信劔小笠原ニテ平瀬雲戒ヲ責落シ玉フ、去程ニ當所ヨリ彌三郎殿御被官衆番積陣立申候、此年地下衆へ過料錢御懸候、中々地下衆難義無申計候、皆ミ所ヲアケ申候

天文廿一年壬子

此年正月廿三日小山田出羽守殿死去、同廿五日申尅送葬御供人衆一万人ニ而送り被食候、次法華宗郡内一番ノ御被成候、此年正月風モ不吹暖ニ御座候、此年七月御本寺ヨリ御大事ヲ越申候、去程ニ談義被成候而、其上御本番ヲ懸申候、信心ニ男女出家賽錢ヲ難候事中々言説不及候、悉ク壁ヲ打破申候、去程ニ皆感泪ヲ流シ候、其上若キ出家衆十六人ニ坊号ヲ授候、後代ニハ有間鋪候間書付候、此年信劔御働候、小岩兵了雲戒ヲ責落シ被食候、打取首五百余人、足弱取事数ヲ不知、此年吉田友屋ニツケ塚ノ宮内左エ門殿屋形御藏ヲ被立作、去程ニ當寺ノ御本番ヲ此年菊月八日造リ申候、本願ハ本行坊日祐取立申候、同ク鬼子母神ヲモ造申候、此年彌八方友屋ニ家ヲ廿四坪ニ作り被申候、此年草生ハ廿分ニ越申候力、風不吹オクテハ能御坐候而作毛ニ不入實候、此年霜月廿七日駿河義元御息女様ヲ甲劔晴信様御嫡武田大吉殿様ノ御前ニナホシ被食候、去程ニ甲劔一家國人ノキホヒ不及言説候、武

田殿ノ人数ニハ更ニ熨計付八百五十腰、義元殿人数ハ五十腰御座候、興十二挺長持廿カラ、女房衆ノ乗鞍馬百足御座候、兩國喜大慶ハ後代有間敷候、其内ニモ小山田彌三郎殿一國ニ而御勝レ候

天文廿二年癸丑

此年世中廿分賣買何モ安シ、六月導者富士へ參詣多事不及言説、去程代ツカヒ能御座候事、近年無之候、此年信劔村上殿八月鹽田ノ要害ヲ引ノケ行方不知ナリ候、一日ノ内ニ要害十六落申候、分捕高名足弱イケ取申候事後代ニ有間敷候、日照ルコト五月ヨリ八九月迄照候而水皆ヒ申候、此方ノ冬水チガヒ申候、去程ニ大麥違ヒ申候、去トモ賣買壹斗小麦四升賣申候、此年出家禰宜衆地下衆主持不申候者、過料錢ヲ懸候而、皆ミナケキ申候事不及言説

天文廿三年甲寅

此年正月雪水富士山ヨリ出申候事、正二三月迄十一度出申候、余リ不思議サニ書付申候、世間富貴成事先代ニ無御座候、六月導者ハ無御座候、錢ヲエリ申候事先代未聞無御座候、賣買ハ安ク候へ共、錢飢渴ニテ候、此年ノ艸生三十年以来無御座候、人々ナヤミ申候無限、腹ヲ煩候而大槩死去申候、此年七月駿河ノ屋形様へ相劔屋形様ノ御息女様ラムカヒ申候、御供人数ノキラメキ色ミ持道具、我々ノ器量程被成候、去程

ニ見物先代未聞ニ御座有間敷候、^{〔請〕}承取渡シハ三嶋ニテ御座候、日ノ照リ申候事不及言説候、餘リ不思議サニ書付申候、此年ノ七月廿四日武田晴信様信州御馬ヲ被出候、ソレヨリ雨^{〔降〕}ふ里申候事無限、大原海ミタイカイヒ申候、三年ツ、ケテ照リ申候間タ、加様ニヒ申候、^{〔主〕}賣買ハ米ハ四升小豆五升大豆六升大麦キ一斗小麦四升、秋世中未タ不見候、草ライハ天下ニテ候、此年ノ八月六日ニ^{〔知久〕}チクノカウリノ要カイ一夜ニ九ツヲチ申候、此年御曹子様始テ御馬ヲ信州へ出シ被食候テ、思フ程切勝チ被成候、此年小室モ自ラヲチ申候とて、内山ノ人数ヲ^{〔在付〕}シツケニ乘リ候て三百計リ打取ル、去程ニ上意様大慶満足被成候事無限候、去程ニ木曾殿モ^{〔義昌〕}笠殿モナラヘテ御出仕被成候、此ノ年八月廿三日ノ夜亥ノ尅ヨリ丑ノ時マテ大風吹キ候て、廿分ノ世ノ中カ一切皆ナ無御座候、家ヲ皆ナ吹キタラシ人馬ヲ悉ク打殺シ申候、吉田ハ千間ノ在所ニ直クナル家一モ無御座候、大竹屋ノ内義ヲ打殺シ申候、同ク子モ死ニ申候、此ノ年八月下浅間ノトリイコロヒ申候、此ノ年河尾リマルヒ取リアケ、森ノ下ヘ水ヲナカシ申候、此年ノ拾月信濃ノ千久殿ヲヤ子三人以上八人大原ノ嶋ヘナカサレ給フ、大原地下衆三人番ニ被成守リ申候、此年冬雪キフラス、路次一段能ク御座候、此ノ年餘リニ^{〔暖気〕}談儀御座候て辛ライ申事無限、皆ミアナヨリ取出シ候て、一兩日サマシ申候て、又穴ヘ取入申候、此ノ年ノ極月甲州武田ノ晴信様ノ御息女様ヲ相州ノ氏安ノ御息新九良殿ノ御前ニ被成候ニ、去程ニ甲州ノ一家国人色々ノ様々ノキラメキ、或ハ^{〔粟斗〕}ノシツケ、或ルハカイラケ、或ルハカタノシツケ、或ルハキンフクリンノ鞍ヲ、^{〔義〕}コシハ十二丁、ヒ^{〔義昌〕}キメノ役ハ小山田弥三郎殿被食候、御供ノ^{〔騎馬〕}キハ甲州ヨリ三千^{〔騎〕}キ人数ハ一万人、長持四十二丁、^{〔請〕}承取り渡ハ上野原ニテ御座候、相州ヨリ御迎イニハ遠山殿・桑原殿・松田殿、是モ二千^{〔騎〕}キ計ニテ罷越候、去ル程ニ甲州ノ人数ハ皆ナ悉ク小田原ニテ越年食サレ候、小山田弥三郎殿^{〔信有〕}両国一番ノシツケノ人ニ被取ラ候、小山田殿ノ御内ニハ小林尾張守殿氏安ノ御座ヘ御参候、か様ナル儀ハ末代ニ有間敷候間書付申候、此ノ年マテ信州ノ千久殿ハ大原ノ嶋ニ御座候

○天文廿四年乙卯閏月十月也

此ノ年ノ正月^{〔暖気〕}談儀ニ御座候、二月モ^{〔腰〕}アタ、カニ御座候、此年ノ五月廿八日ニ信州ノ千久殿・与四良殿^{〔舟津〕}フナツニテ生害被成候、宮下助六方打被申候、去程ニ此年ノ七月廿三日ニ武田ノ晴信信州ヘ御馬ヲ被出候、去ル程ニ村上殿・^{〔高梨〕}タカナシ殿・越後ノ守護長尾ノ^{〔景虎〕}奉ル頼ミ、同ク景虎モ廿三日ニ御馬ヲ被出候テ善光寺ニ御陣ヲ^{〔義〕}ハリ被食候、武田殿ハ三十里コナタナル大ツカニ御陣ヲ被成候、善光寺ノ堂主栗田殿ハ^{〔旭〕}アサヒノ城ニ御座候、アサヒノ要害エモ武田ノ晴信人数ヲ三千人、サケハリヲイル程ノ弓ヲ八百丁^{〔鉄砲〕}テツハウヲ三百カラ御入レ候、去程ニ長尾ノ景虎細々責メ候ヘ共不叶ハ、後ニハ駿河ノ今河^{〔川〕}ノ義元ノ御アツカイニテ和談被成、^{〔閏〕}壬十月ノ十五日ニ^{〔五〕}タカイニ御馬ヲ入レ被食候、以上二百日ニテ御馬入リ申候、去程ニ

ニ見物先代未聞御座有間敷候、^{〔請〕}請取渡ハ三嶋デ御座候、日ノ照申候事不及言説、余リ不思議サニ書付申候、此未七月廿四日武田晴信様信^{〔羽〕}ヘ御馬出候、夫ヨリ雨降不申事無限、大原海大槩ヒ申候、三年續テ照候間、ケ様ニヒ申候、^{〔主〕}賣買米四升小豆五升大豆六升大麦壹斗小麦四升、秋世中未見候、^{〔草生〕}草生ハ天下ニテ候、此年八月六日ニ佐久郡要害一夜ニ九ツ落申候、此年御曹子様始而御馬ヲ信^{〔羽〕}ヘ出シ被食候而、思フ程切勝被成候、此年小室自ラ落申候トテ、内山ノ人数ヲオシツケニ乘リ候而三百計打取、去程ニ上意様大慶満足被成候事無限、去程ニ木暮殿モ^{〔ササキ〕}笠殿モ競ヒ御出仕被成候、此年八月十三日夜亥尅ヨリ丑ノ時迄大風吹候而、十分ノ世中一切皆無御座候、家ヲ皆吹タフシ人馬ヲ皆打殺シ申候、吉田ハ千軒ノ在所ニ直クナル家一モ無御座候、大竹屋ノ内室ヲ打殺シ申候、同子モ死申候、此年八月下浅間鳥居コロヒ申候、此年河尻マルヒ取申候而、森ノ下ヘ水ヲ流シ申候、此年十月ニ信濃ノ知久殿親子ニ一人以上八人大原ノ島ヘ流サレ玉フ、大原地下衆三人番ニテ守リ申候、此年冬雪不降、路次一段能ク御座候、此年余リ暖気ニ候而辛生申候事無限、皆穴ヨリ取出シ候而、一兩日サマシ申候而、又穴ヘ取入候、此年極月武田晴信様ノ御息女様ヲ相^{〔羽〕}氏康ノ御息新九郎殿ノ御前ニ被成候、去程ニ甲^{〔羽〕}一^{〔羽〕}一家國人色々ノ様々ノキラメキ、或ハ^{〔粟斗〕}斗付、或ハカイヒラケ、或ハカタ^{〔義昌〕}熨斗付、或ハ金覆輪鞍、^{〔義〕}與ハ十二挺、^{〔氷〕}氷岐女ノ役ハ小山田彌三郎殿被成候、御供ノ騎馬甲^{〔羽〕}ヨリ三千騎人数ハ一万人、長持四挺二挺、^{〔請〕}請取渡ハ上野原ニテ御座候、相^{〔羽〕}ヨリ御迎ニハ遠山殿・桑原殿・松田殿、是モ五千計ニテ罷越候、玄程甲^{〔羽〕}人数ハ皆悉小田原ニテ越年被食候、小山田彌三郎殿ノ御内ニハ小林尾張守殿氏康ノ御座ヘ参候、加様成儀ハ末代有間鋪候間書付申候、此年迄信^{〔羽〕}知久殿ハ大原ノ島ニ御座候

天文廿四年乙卯閏月十月也

此年正月暖気ニ御座候、二月モ^{〔腰〕}喧ニ御坐候、五月廿八日信^{〔羽〕}知久殿・與四郎殿^{〔舟津〕}津ニテ生害被成候、宮下勘六方打被申候、去程此年七月廿三日武田晴信公信^{〔羽〕}ヘ御馬ヲ被出候、村上殿・高梨殿・越後守護長尾景虎ヲ奉頼、同景虎モ廿三日ニ御馬被出候而善光寺ニ御陣ヲ張被食候、武田殿ハ三十丁此方成リ大塚ニ御陣ヲ被成候、善光寺ノ堂主栗田殿ハ^{〔旭〕}旭ノ城ニ御座候、旭ノ要害ヘモ武田晴信公人数三千人、サケハリヲイル程ノ弓ヲ八百張鐵砲三百挺入候、去程ニ長尾景虎再々責候ヘ共不叶、後ニハ駿河今川義元御扱ニテ和談被成候、^{〔閏〕}壬十月十五日双方御馬ヲ入被食候、以上二百日ニテ御馬入申候、去程ニ

人馬ノツカレ無申計候、此ノ年錢ニ南金ト云錢出キ候て代ヲ
〔護〕
エル事無限、此ノ年富士山北室ノ行者堂立申候、去程ニコマ
〔上〕
堂モウハフキ小林善三殿本願ニテ被成候、此ノ年ノ壬拾月十
日ニ王吉田西念寺へ御付キ候、去程ニ地下侍出家男女皆々參
候事無限、一夜御座候て河口善應寺へ御付候、此年駿河ノ義元
〔著〕
ノ御内ヲ意見申候物説最ト申御出家壬拾月御死去被成候、駿
河ノ力落不及言説、此年相州ノ新九郎殿霜月八日ニ御曹子様
〔北条氏政〕
ヲマウケ給フ、甲州ノ御満足大慶此事候
〔晴信様ノ〕

○弘治二年
天文廿五年丙辰

〔安〕
此年ノ春ハ賣買一切ヤンシ、乍去世間ツマル事不及言説、錢
〔矢澤〕
ケカチニテ御座候、此年小林尾張守殿サタチカイトヲ田ニ御
〔堀〕
ホリ候、又小山田弥三郎殿御ヒカントタイ御座候て、地下
衆ナケキモアリ喜ヒモ御座候、コトサヲ尾州吉田衆エヒフン
〔殊更〕
ヲ、ク候間廿人ヒキハカサリ、其内ニ御家人マサリ谷村へ
下、久敷祇候へ共御サハキナク候トテ府中へ越被申候、屋
形様ノ御意ニテ悉ク廿人衆ノ道理ニ御サハキ候、去程ニ尾張
被官ヲハヤシキカラミハラハレ申候、此年吉田廿人ノ寄子モ
ハナシ彌三郎殿ノ馬マハリニ罷成候、其上猶下吉田小林和泉
殿ヨリ非分多ク候間、百余人談合申、小山田殿エ下リ被申候
處ニ、サカイノ彈正殿ヲ頼御申、一日ノ内ニ使ヲ三度マテ下
シ、下吉田衆ヲ留メ候て給候へト色々訛言被成候へ共、更ニ
理ヘンツキ不申候間、小林文三殿八月ヨリ来正月マテ府中ニ
ツメラレ候、去間小山田弥三郎殿色々訛言晴信サマ工御
〔大徳〕
□申得候て、文三殿ヲモ郡内へ御歸シ候、去程ニ谷村エ下吉
田地下衆□ヨヒ下シ、ケツハラサセラレ、弥三郎殿御意ニテ
〔不敵成候〕
小林和泉守殿出合□乍去和泉寄子被官ヲ□
〔ハ押シ放シ候〕
〔以下欠損を「妙法寺記」で補う〕

○「弘治三年」
巳

二月奉行者皆々御上リ候てカナタコナタヲ御覽シ候、其時小
林一兵衛殿・□二郎左衛門殿・同左近殿ワルロヲ被申候、
去間谷村へ罷下候へハ悉ク下吉田ノ百余人ノ道理ニ御サハキ
被成候而、地下衆ヲ御歸シ候、其年之十月セキトウクニ宮林
之奈ノ木ヲ切候へハ、一兵衛殿出候て切物ヲ取、其上人足を
〔散〕
サシノキ被申候間、下吉田百余人衆松山へサシカケ
質物ヲ取返し被申候へハ、奈山ヨリ信濃陣マテ人ヲ御越、弥
三郎殿へ披露被申候得共、別儀無之候て、結句其時從國中御
上様迄越被申候、折節ニ殿様ノ御意候て下吉田へ奉行人ヲ御
上セ被申候、百余人衆ト奈山トノ中ナヲシ御座候、其年八十
二月日テリ候て、イモ悉クヤケカレ候、去程ニ其冬中タンキ
ニ御座候、此年悉クケカチ入候事無限リ候

○永祿元年
戊午

此年之八月五日ニ大風吹キ申候、乍去秋世中粟半、耕作同イ
モ半、世中殊ニ大麦小麦半、世中イ子大豆小豆ハ廿分ニ出来
候て賣買何モ安シ

○永祿二年
己未正月小二月大

同正月之申之日雪水出候て悉ク田地家村を流シ候、就中此年

人馬勞無申計候、此年錢南京ト云錢出来候而代ヲ
エル事無限、此年富士山北室行者堂立候、去程ニ護摩
堂トモ上膏小林善三殿本願ニテ被成候、此年閏十月十
日ニ王吉田西念寺へ御着候、去程ニ地下侍出家男女皆々參
候事無限、一夜御座候而川口禪應寺へ御越候、此年駿河義元
ノ御内ヲ異見申候者、説最ト申御出家閏十月九日御死去被成候、
駿河力落不及言説、此年相州新九郎殿霜月八日曹子
様ヲ投ケ玉フ、甲州晴信公御満足大慶此事候

弘治二年
辰丙

〔安〕
此年春賣買一切安シ、乍去世間ツマル事不及言説、錢
飢渴ニテ御座候、此年小林尾張守殿貞親井土ヲ田ニ御
ホリ候、又小山田彌三郎殿御被官探題御座候而、地下
衆敷モアリ喜モ御座候、殊更尾助吉田衆ニ非分
多ク候間二十人ヒキワカサリ、其内ニ御家人交リ谷村へ
下リ、久敷詰候へトモ御捌無ク候トテ府中へ越被申候、屋
形様ノ御意ニテ悉ク廿人衆ノ道理ニ御捌候、去程ニ尾張
被官ヲハ屋鋪搦ニ被拂申候、此年吉田廿人ノ寄子モ
ハナシ彌三郎殿ノ馬マハリニ被成候、其上於下吉田小林和泉
殿ヨリ非分多ク候間、百余人談合申、小山田殿へ下リ被申候
處ニ、境ノ彈正殿ヲ頼申、一日ノ内ニ使ヲ三度迄下
シ、下吉田衆ヲ留候テ給候へト色々訛言被成候へ共、更ニ
理ヘンツキ不申候間、小林文三殿八月ヨリ来正月迄府中ニ
被詰候、去間小山田彌三郎殿色々訛言晴信様へ御申
上申候而、文三殿ヲモ郡内へ御歸シ候、去程ニ谷村下吉田
地下衆ヲ呼下シ、ケツハラサセラレ、彌三郎殿御意ニテ
小林和泉守殿出不被成候、乍去和泉寄子被官ヲハ押離シ申候

弘治三年
丁巳

二月奉行方皆々御上候而カナタコナタト御覽シ候、其時小
林市兵衛殿・與二郎左衛門殿・同左近殿悪口ヲ被申候、
去間谷村へ罷下候へハ悉下吉田ノ百余人ノ道理ニ御捌
候而、地下衆被御歸候、其年ノ十月堰道具ニ宮林
ノ松木ヲリ候へハ、一兵衛殿御出候而切物ヲ取、其上人足ヲ
散々ニタ、キ被申候間、下吉田百余人衆松山へオシカケ
質物ヲ取反シ被申候へハ、松山ヨリ信濃陣迄人ヲ御越、彌
三郎殿へ披露被申候へ共、別義無之候、結句其時從國中御
上様迄越被申候、折節殿様ノ御意ニテ下吉田へ奉行人ヲ御
上セラレ、百余人衆ト松山トノ中ナホシ御座候、其年八十
二月日テリ候而、芋悉クヤケカレ候、去程ニ其冬中暖氣
ニ御座候、此年悉ク飢渴入ル事無限

永祿元年
戊午

此年八月五日大風吹申候、乍去秋世中粟半、耕作同
半、世中殊ニ大麦小麦半、世中稲大豆小豆ハ廿分ニ出来
候而賣買何モ安シ

永祿二年
己未正月小二月大

正月申日雪水出候而悉田地家村ヲ流シ候、就中此年

之二月信州江之番手ヲ遊^{〔註〕}るし候て、又谷村之御屋敷普請、同
つほの木又サイカチ公事ナトヲモ法理衆計不致、ユルシ候て
宮之河^{〔條〕}ヨケヲ被成、其上弥三郎殿御意を以テ宮林之木を法理^{〔條〕}
衆之マ、ニ被成、小林尾張殿奉行ニテ宮林ヲ切リワクヲタテ^{〔條〕}
ヲサメ候、然者小林和泉殿宮林ヲキラセマシキ^{〔切〕}□二三度押被^{〔由〕}
申候へ共、法理衆皆ミモチイスシテ、弥三郎殿御下知ニテ用
之程切り候て、宮之河よけ致申候、同其年之春ハ賣買何モ安
シ、同年〔以下欠損〕

二月信効ヘノ番手ヲユルシ候而、又谷村御屋敷普請、同
ツホノ木又サイカチ公事ナトヲモ祝師衆計不致、ユルシ候而
宮ノ川ヨケヲ被成、其上彌三郎殿御意ヲ以テ宮林ノ木ヲ祝師^{〔註〕}
衆マ、ニ被成、小林尾張殿奉行ニテ宮林ヲ伐リワタヲ立被
納候、然者小林和泉殿宮林ヲ為伐間鋪由二三度押被
申候へ共、祝師衆皆ミ不用シテ、彌三郎殿御下知ニテ用
ノ程伐候而、宮ノ致川ヨケ申候、同其年ノ春ハ賣買何モ安
シ、同年四月十五日大永降、夕顔茄子麻稗苗殊ニ驚菜悉打折
何モ無シ、大麥ハ半分コホシ候、就中庚戌年八月、小林
宮内少輔殿河ヨケ普請ニ、新居左近地付ノ林ヲ伐候而堰候
ヘハ、其過怠トシテ下吉田百余人ノ所ヨリ質物ヲ一兵衛殿
取被申候ヲ、皆ミ道理ヲ申分候間、松山ヨリ悉ク質
物共ヲ反シ被申候へ共、左近同法林坊質物計不被返候
間、打置申候處ニ、巳未年四月體ニ小山田殿御意ニテ手取、
ニツ新鍬一勺拾年ト申反シ被申候之間、目出度請取申候

永禄二巳年

十二月七日ニ大雨降、俄ニ雪シロ水出テ法ヶ堂皆悉流レ申
候、又在家ノ事ハ中村マルク流シ候事無限、

永禄三申年

二月廿日大雪降、鹿鳥無殘被取申事無限候、此年六月前ハ日
ヨリ同六月十三日ヨ雨降始來ル、十月迄降續候間、耕作以下
何モ無之候、去程ニ巳未ノ年疫病流行、悉人多死事無限候、
惣而酉ノ年迄三年疫病流行、村郷アキル候事無限、導者之事

ハ二月ヨリ八月迄參申候

永禄四酉年

正月二月大雪降積リ薪ニツマル事無料間候、此年ノ大麥賣買
ハ五月七升也、同小麥ハ四升十文サシ賣候也、秋世中半作ニ
テ候へ共、賣買ヤスシ、此年ノ十月十日ニ、晴信公景虎ト合
戰被成候而、景虎悉人數打死イタサシ申候、甲効ハ晴信御舍
弟典厩ノ打死ニテ御座候、就中郡内彌三郎殿ハ御立無ク候
而、人衆計立候へ共、ヨコイレヲ被成候而入クツシ、近國ヘ
名ヲ上ケ被申候。